




筑波大学 ダイバーシティ

Office of Diversity University of Tsukuba

平成25年度活動報告書

国立大学法人筑波大学
ダイバーシティ推進室



筑波大学 ダイバーシティ

Office of Diversity University of Tsukuba

平成25年度活動報告書

CONTENTS

4	発展をつづける筑波大学ダイバーシティ推進の歩みと取り組み
5	I 筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針・行動計画
6	筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針
6	筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針 英語版
7	筑波大学ダイバーシティ推進行動計画
9	ダイバーシティ推進室・室員会議
13	II 平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）
14	1. 事業の目的・目標・実施体制
16	2. 平成25年度事業計画
17	3. 「女性研究者支援協議会」の設置



19 Ⅲ ダイバーシティ推進事業

20	1. 意識啓発事業
20	①「つくば女性研究者支援協議会」キックオフシンポジウム
21	②公開講座
23	③ダイバーシティ・セミナー
31	④学群総合科目「ワーク・ライフ学Ⅰ・Ⅱ」、大学院共通科目「仕事と生活と男女共同参画Ⅰ・Ⅱ」
33	2. 環境整備事業
33	①研究・業務補助者雇用経費助成制度
33	②育児クーポン
34	3. 相談事業
34	①相談室「あう」
36	②アカデミック・メンター制度
36	4. 調査事業
37	5. 裾野拡大事業
37	①ロールモデル集の作成・活用
39	②女子学生向け理系進路支援事業
40	6. 他機関・他部局との連携
41	①女性研究者支援事業合同シンポジウム 報告要旨・ポスター
43	②筑波技術大学第2回FD研修会 報告資料
48	③つくば男・女（みんな）のつどい2013 報告資料
49	参考資料
49	①女性研究者数と女性研究者比率の推移
50	②平成25年度主な事業一覧
52	③裾野拡大事業関連資料
68	あとがき



発展をつづける筑波大学 ダイバーシティ推進の歩みと取り組み

筑波大学は平成25年で創立40周年を迎えました。現代日本社会は高度情報化、グローバリゼーション、少子高齢化が急速に進み、急激な変化を遂げています。こうした中、大学も変容と変革を続けてきました。その変革の大きなテーマの一つが男女共同参画、ダイバーシティ推進です。

本学の男女共同参画の取り組みは平成9年「筑波大学女性教官懇話会」の発足に始まり、その後、男女共生プロジェクト、男女共同参画推進委員会の立ち上げを経て、平成20年4月、「男女共同参画推進室」が設置されました。「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念と基本方針」も策定され、推進室が設置されて以降、それまでの10年間の蓄積が開花したように筑波大学の男女共同参画の取り組みは一気に進められました。様々な取り組みの中でも特に大きな取り組みは、平成21年度から3年間、文部科学省科学技術振興調整費「持続可能な女性研究者支援モデル育成事業」に採択されたことです。意識啓発、環境整備、相談体制を活動の3つの柱とし、2か所の学内保育所の設置、ワークライフバランス相談室『あう』の開設、ハラスメント相談体制の整備、育児・介護支援、両立支援、女性研究者支援、通称使用など実に様々な取り組み、活動を展開しました。

さらに平成25年度は、科学技術振興機構（JST）の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択されました。女子中高生理系進路選択支援プログラムでは「発見しよう 理系の魅力！繋がろう 理系仲間 in Tsukuba 2014」と題し、全国からリケジョをめざす中高生100名がつくばに集まり、8月は2泊3日、3月は1日かけて学内の実験・研究施設を見学し、理系研究者、理系仲間と交流を深めました。中身の濃いプログラムに参加した中高生は大満足でした。また本年より3年間、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」にも採択されました。これにより「つくば女性研究者支援協議会」が発足、「つくば」を基盤とし、近隣の大学、研究機関、企業と情報交換、連携・協力し、相互の学びを深め、女性研究者支援に一層取り組んでおります。平成25年度は関係の方々の理解と協力により、「くるみんマーク」も取得し、さらにまた一歩、ダイバーシティ推進のための環境整備を進めることができました。

変革を続ける大学において、新たな智の創造、教育・研究の推進、国際社会・地域への貢献、未来を担う人材育成の実現のためにも、真のダイバーシティ推進の実現が望まれます。そのためには女性管理職の登用、女性教員（特に理系）、外国人や障害を有する教職員の支援、育児・介護の支援など、取り組むべき課題はまだあります。この1年間の活動を踏まえ、推進室は今後も一丸となって取り組んで参ります。筑波大学のダイバーシティの一層の推進と実現に向け、みなさまの忌憚のないご意見、ご要望をお寄せいただき、ご支援、ご協力のほどお願い致します。

平成26年3月

ダイバーシティ推進室室長
庄司 一子



I

筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針・行動計画

I 筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針・行動計画

筑波大学では平成20年に「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針」を策定し、同理念・方針に則って男女共同参画推進室を中心に本学におけるダイバーシティ推進を行ってきた。平成24年には、それまでの男女共同参画をさらに拡充するため、「ダイバーシティ基本理念・基本方針」を策定し、「男女共同参画推進室」から「ダイバーシティ推進室」と名称を改め、更に平成25年には「筑波大学ダイバーシティ推進行動計画」を策定し、本学のダイバーシティ環境作りに取り組んでいる。

筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針

【基本理念】

筑波大学は、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず人間の可能性と多様性を尊重し、ダイバーシティ文化の醸成に努めるとともに、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作りあげるため、以下の理念のもとに、男女共同参画社会及びダイバーシティ社会の形成に積極的に寄与する。

1. 性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず、すべての人の人権の尊重、個人の尊厳の確立
2. 性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず個人としての個性と能力発揮の機会の確保
3. あらゆる分野における諸施策の企画・立案及び決定において、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず対等な参画の推進
4. 男女共同参画社会、及びダイバーシティ社会の実現に向けた国際協力の推進

【基本方針】

基本理念に基づき、次に示す基本方針に添って行動する。

1. 男女共同参画、及びダイバーシティの視点に立った教育・研究・就業の確立
2. 教育・研究・就業と家庭生活との両立支援
3. 若手、女性、外国人等^(注)増加のための施策の推進
4. 若手、女性、外国人等の役職、及び施策決定に関与する委員会への登用の促進
5. 教職員・学生への啓発活動の推進
6. 地域社会・国際社会との連携を通じての男女共同参画、及びダイバーシティの推進

(注)「若手、女性、外国人等」とは、左記に掲げた人々のみならず、性別、年齢、国籍や障がいの有無を超えた多種多様な人々を指す。

筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針 英語版

Basic Principles

University of Tsukuba commits itself to actively contributing to the formation of a society founded on human equality and gender equality in accordance with the following principles, thereby becoming a university where human potential and diversity are respected and all stakeholders can experience pride and joy in their work:

1. Respect of the human rights regardless of age, gender, nationality, or disability and the establishment of the dignity of the individual
2. Creation of opportunities for all people to realize their full individuality and potential regardless of age, gender, nationality, or disability



3. Promotion of equal participation regardless of age, gender, nationality, or disability in planning, development, and decision-making for policies in every area of campus life and administration
4. Promotion of international cooperation in the service of achieving a society founded on gender equality and diversity

Basic Policies

The University of Tsukuba shall act in accordance with the following Basic Policies, which embody the Basic Principles described above:

1. Pursuit of education, research, or work from the perspective of gender equality and diversity
2. Offering of assistance in the balancing of education, research, or work with family life
3. Expansion of an open recruitment system in order to increase the number of young, female, or foreign faculty members
4. Promotion of young, female, or foreign faculty members to administrative positions
5. Pursuit of awareness-raising activities targeting faculty members and students
6. Pursuit of gender equality and diversity through partnerships with the local community and international society

Note: The term “young, female, or foreign” refers to individuals regardless of age, gender, nationality, or disability.

筑波大学ダイバーシティ推進行動計画

筑波大学は、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず人間の可能性と多様性を尊重し、男女共同参画社会などのダイバーシティ社会の形成に努めるとともに、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作りあげるため、「国立大学法人筑波大学中期目標・中期計画」、及び「筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針」に基づき、その具体化に向けて、「筑波大学ダイバーシティ推進行動計画」を策定する。

本行動計画の実施期間は、2013（平成25）年度から2018（平成30）年度までの6年間とし、年度ごとに進捗状況を精査しながら以下の施策に取り組む。

筑波大学ダイバーシティ推進行動計画

1. 大学運営におけるダイバーシティの推進

- (1) 大学の施策決定に関与する役職者や委員会におけるダイバーシティ・バランスの配慮
- (2) 若手・女性・外国人等の積極的登用・昇進
- (3) 各系における女性、外国人、障がい者等の採用数値目標と採用計画の策定支援

2. 教育・研究・就業と家庭生活との両立支援

- (1) ライフステージに対応した勤務制度の拡充
- (2) 出産、育児環境の拡充
- (3) 介護環境の充実
- (4) 相談窓口の拡充
- (5) インターネットによる在宅研究支援の拡充
- (6) 両立支援のための経費助成の拡充
- (7) 両立支援のための情報交換の推進

3. ダイバーシティ実現のための裾野拡大

- (1) 女性研究者等の裾野拡大施策の拡充
- (2) 外国人等の裾野拡大施策の導入
- (3) 障がいを抱えた方の裾野拡大施策の導入
- (4) ダイバーシティの視点からの学内設備・建物の見直し
- (5) アカデミック・メンター制度の拡充

4. 教職員・学生への啓発活動の推進

- (1) 教職員を対象とした啓発活動
- (2) 学群生・大学院生等への啓発活動
- (3) 定期的なニーズアンケート調査の実施
- (4) ダイバーシティを推進するための広報活動（ウェブサイト、リーフレット等）の拡充
- (5) 就業・修学環境の悪化へと繋がるハラスメントの防止対策
- (6) ダイバーシティの視点を取り入れた災害対策

5. 地域社会・国際社会との連携を通じたダイバーシティの推進

- (1) 筑波研究学園都市内の研究機関、及びダイバーシティを推進する他大学との連携
- (2) 茨城県やつくば市をはじめとする地方自治体との連携
- (3) 企業との連携
- (4) 初等中等教育機関との連携
- (5) 国際社会の取組との連携
- (6) ダイバーシティ推進を率先して実施している大学として、ダイバーシティ教育・研究の充実を行う

ダイバーシティ推進室・室員会議

ダイバーシティ推進室室員（平成25年度）

氏名	所属	職名	
庄司 一子 ショウジ イチコ	人間系	教授	室長
幅崎 麻紀子 ハバザキ マキコ	ダイバーシティ推進室	准教授	副室長
谷口 陽子 タニグチ ヨウコ	人文社会系	准教授	
大野 忠士 オオノ タダシ	ビジネスサイエンス系	教授	意識啓発WGリーダー 平成25年12月迄
姫野 博昭 ヒメノ ヒロアキ	ビジネスサイエンス系	准教授	平成26年1月
植田 暁子 ウエダ アキコ	数理物質系	助教	
志築 文太郎 シヅキ ブンタロウ	システム情報系	准教授	
中田 和人 ナカダ カズト	生命環境系	教授	
嶺井 明子 ミネイ アキコ	人間系	教授	
小野 裕子 オノ ユウコ	芸術系	助教	
麻見 直美 オミ ナオミ	体育系	准教授	相談体制WGリーダー
河野 了 カワノ サトル	医学医療系	講師	環境整備WGリーダー
池内 淳 イケウチ アツシ	図書館情報メディア系	准教授	
瀬尾 恵美子 セオ エミコ	医学医療系 (茨城県地域臨床教育センター)	講師	
江口 勇治 エグチ ユウジ	人間系 附属学校教育局	教授	
小島 幹正 オジマ ミキマサ	総務部職員課	課長	
柴 貞重 シバ サダエ	総務部人事課	副課長	
須藤 英世 スドウ ヒデヨ	研究推進部研究企画課	副課長	
沖永 友貴枝 オキナガ ユキエ	総務部職員課	心理カウンセラー	

ダイバーシティ室員会議の実施

平成25年度ダイバーシティ室員会議の実施・室員会議における審議事項等

第1回 平成25年4月19日（金）15:30～17:00	
審議・検討事項	
1	ダイバーシティ推進室規程の改定
2	平成25年度ダイバーシティ推進室員会議開催日程
3	ダイバーシティ推進室員の交代（新室員の紹介）
4	ダイバーシティ推進室の平成24年度実施内容
5	平成25年度ダイバーシティ推進室の体制・活動計画
6	ワーキンググループ・メンバー
7	女子中高生の理系進路選択支援プログラム「発見しよう 理系の魅力！ 繋がろう 理系仲間！ in Tsukuba～ラボ実験合宿型、リケジョ育成プログラム～」
8	「女性研究者研究活動支援事業・拠点型」応募申請
報告事項	
9	ダイバーシティ推進室・パンフレット
10	アカデミック・メンターハンドブック
11	ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”の活動
12	ランチョン懇談会番外編+室員ミーティングオフ会
第2回 平成25年7月12日（金）15:30～17:00	
審議・検討事項	
1	女子中高生の理系進路選択支援プログラム
2	女性研究者研究活動支援事業
3	公募のダイバーシティ化を促すための文言集の作成・周知
4	公開講座（東京キャンパス）実施
5	系長、研究科長ヒアリングの実施
6	ダイバーシティ推進行動計画周知活動
報告事項	
7	ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”の活動
8	ダイバーシティ推進室HPのリニューアル
第3回 平成25年9月6日（金）15:30～17:00	
審議・検討事項	
1	女子中高生の理系進路選択支援プログラム
2	系長ヒアリングの実施

3	平成25年度アカデミック・メンター養成講座
4	ゆりのき保育所への協力事業
5	「管理企画業務等の大学運営におけるダイバーシティ推進を目的とする業務補助者雇用経費助成制度」の実施
6	第11回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの参加
報告事項	
7	「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の選定結果
8	人間総合研究科FDとの共催事業
第4回 平成25年11月18日（月）15:30～17:00	
審議・検討事項	
1	ダイバーシティ推進室の業務内容の改定
2	「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」事業
3	平成26年度公開講座について（審議）
4	女性・外国人教員の応募状況調査結果、及び調査結果の活用方法
報告事項	
5	「管理企画業務等の大学運営におけるダイバーシティ推進を目的とする業務補助者雇用経費助成制度」の採択結果
6	「研究補助者雇用経費助成制度」の実施
7	「産前産後・育児休業取得時の代替要員制度拡充」の要望書
8	平成25年度公開講座
9	ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”の活動
10	女性研究者支援事業合同シンポジウム
11	女子中高生の理系進路選択支援事業リケジョカフェ（3月15日開催）/ニューズレター発行/TV放映
第5回 平成26年1月27日（月）15:30～17:00	
審議・検討事項	
1	ダイバーシティ推進室 新メンバー紹介
2	「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」事業
3	つくば女性研究者ロールモデル集
4	女子中高生の理系進路選択支援事業（平成26年度）申請
5	ニーズ（アンケート）調査
報告事項	
6	次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん」マークの申請
7	ダイバーシティ推進室の業務内容の改定



- 8 「研究補助者雇用経費助成制度」の採択結果
- 9 筑波技術大学FD研修会への協力（12月4日）
- 10 平成25年度公開講座開催報告（12月8日、15日）
- 11 茨城県保健福祉部子ども家庭課「若者への意識啓発講座（大学生編）」への協力
- 12 平成25年度女子中高生の理系進路選択支援プログラムの今後の予定
- 13 ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”の活動

第6回 平成26年3月17日（月）15:30～17:00

審議・検討事項

- 1 「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」平成26年度計画
- 2 平成26年度学長主催トップマネジメントセミナー

報告事項

- 3 「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」事業
- 4 つくば女性研究者ロールモデル集
- 5 平成25年度女子中高生の理系進路選択支援事業
- 6 育児クーポン利用状況
- 7 ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”の活動
- 8 「フレッシュマンセミナー2013」での活動紹介記事掲載
- 9 「ダイバーシティカフェ」（ダイバーシティリサーチグループ主催、ダイバーシティ推進室共催）
- 10 平成25年度ダイバーシティ推進室懇親会



Ⅱ

平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

Ⅱ 平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

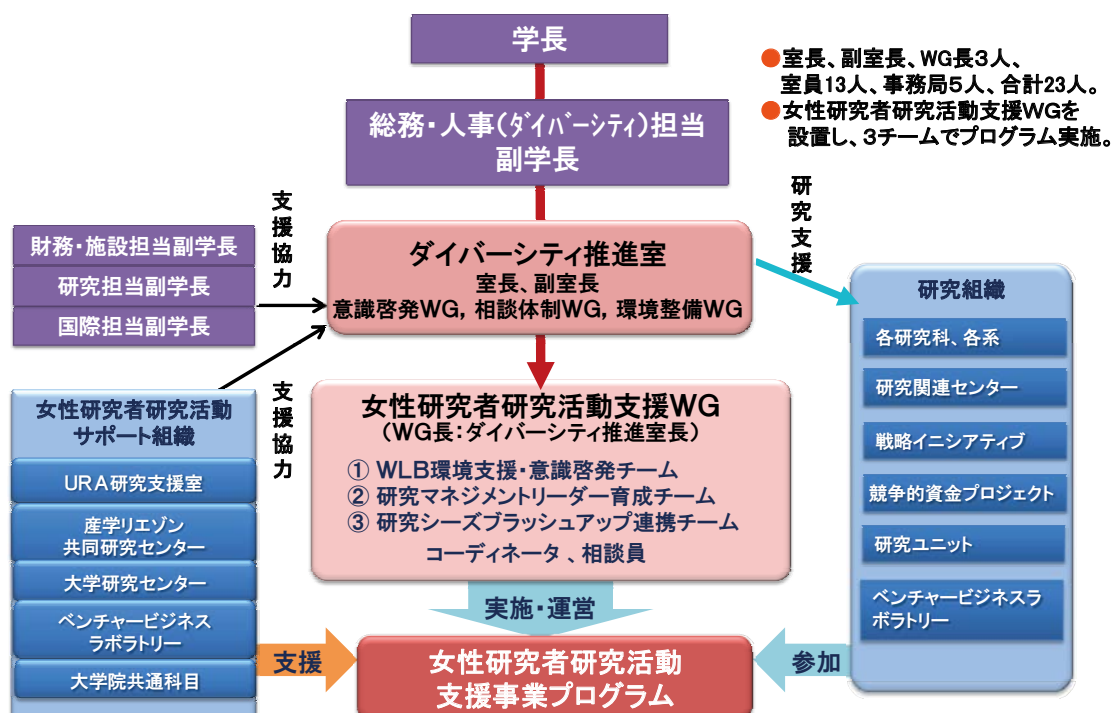
平成25年度は、新たに「平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の採択を受け、筑波大学を拠点に、つくば地域の大学、研究所、つくば地域にゆかりのある企業と協働しながら、女性研究者がその能力を最大限発揮しうるための環境づくりと支援活動を実施している。事業の目的・体制等は下記の通りである。

1. 事業の目的・目標・実施体制

事業の目的と目標

- ・女性研究者がライフイベントと研究を両立し、能力を最大限発揮しうるよう、「女性研究者支援連絡協議会（仮称）」を設立し、その成員である大学・企業と協働しながら、そのための環境作り及び支援活動を行う。
- ・本プログラムは筑波大学を中心に組織する「女性研究者研究支援連絡協議会」と連携協力を図りながら事業を進め、筑波大学においては、女性教員比率を平成27年度に18%、平成35年度に20%へ、マネジメントに関わる女性在职者率を11.5%、採用比率を23%とし、女性研究者の研究プロジェクトや研究業績数の増加、及び女性研究者の離職率の減少を目指す。連携機関においては、女性研究者比率や管理職女性研究者比率の上昇、女性研究者の離職率の減少、「くるみんマーク」の未認定機関（行動計画策定義務のある事業所のみ）4機関中2機関の認定を目指す。
- ・本事業で支援を受けた女性研究者が世界レベルの異分野融合型の共同研究を組織、もしくは参加することを目指す。

女性研究者研究活動支援事業（拠点型）学内実施体制



女性研究者研究活動支援事業(拠点型)達成目標



女性研究者支援活動のための3つのプログラム

(A) ワーク・ライフ・バランス環境支援・意識啓発連携プログラム

- ・女性研究者の現状とニーズ調査の定期的実施と分析・改善
- ・WLB支援資源の発掘と活用
- ・女性研究者支援ネットワーク憲章・協定の締結
- ・WLB相談室“あう”の開放等、「相談プログラム」の共有
- ・事業所内保育施設の相互利用の検討
- ・研究補助者雇用支援制度の適用範囲の拡大
- ・メンター制度の相互利用とメンター育成プログラムの開放
- ・女性研究者の採用・昇進等のための意識啓発シンポジウム・セミナーの開催
- ・女性研究者支援ネットワーク情報交換Webサイトの開設
- ・女性研究者の筑波地域での就職・再雇用のための支援
- ・「くるみんマーク」認定のための連携協力
- ・男女共同参画推進に関する教育科目の拡充と開放 など

(B) 研究マネジメントリーダー育成連携プログラム

- ・研究力アップのためのセミナーの開催
- ・上位職への登用に向けたマネジメント力アップセミナー
- ・上位職への登用に向けたマネジメントスキル診断の実施 など

(C) 研究シーズブラッシュアップ連携プログラム

- ・研究技術情報・研究シーズ情報データベースの構築
- ・研究シーズブラッシュアップ勉強会の開催 など

2. 平成25年度事業計画

I. 補助事業の内容

1. 補助事業の名称

「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」

2. 機関名

国立大学法人筑波大学

3. 補助事業の目的

本事業は、女性研究者がライフイベントと研究を両立し、能力を最大限発揮しうよう、「女性研究者支援連絡協議会（仮称）」の会員である大学・企業と協働しながら、そのための環境作り及び支援活動を行うことが目的である。

本プログラムは筑波大学を中心に組織する「女性研究者研究支援連絡協議会」と連携協力を図りながら事業を進め、筑波大学においては、女性教員比率を平成27年度に18%、平成35年度に20%へ、マネジメントに関わる女性在职者率を11.5%、採用比率を23%とし、女性研究者の研究プロジェクトや研究業績数の増加、及び女性研究者の離職率の減少を目指す。連携機関においては、女性研究者比率や管理職女性研究者比率の上昇、女性研究者の離職率の減少をすることが目標である。

4. 本年度の事業の項目及び内容

(1) 女性研究者支援にかかる取組普及体制の確立と拡充

本取組の普及体制を確立すべく、学長、副学長の強力なリーダーシップのもと、ダイバーシティ推進室長をWG長、ダイバーシティ推進室専任の副室長を副WG長、各室員等から成る女性研究者研究活動支援WGをダイバーシティ室内に組織する。実働組織の専任職員として、コーディネータと事務補佐員を新たに雇用し、取組普及体制を整える。更に、連携機関との協働組織として「女性研究者支援連絡協議会」を設立し、連絡協議会のパンフレットを作成し、HPを活用し、積極的に「協議会」をPRして、連絡協議会加盟機関の拡充を図る。

(2) ワーク・ライフ・バランス環境支援のための取組

筑波大学及び連携機関の研究者を対象に、ワーク・ライフ・バランス環境支援についてのニーズ調査（アンケート調査）及びフォーカスグループインタビューを実施し、本ネットワーク構築のニーズを的確に把握すると共に、アンケート調査を通じて本プログラムを実施していることを、各機関の職員全員に周知する。また、現状における各連携機関のワーク・ライフ・バランス支援施策・制度について把握し、連携機関と協働で運営・利用することの可能な資源を把握する。その上で、協働利用に向けた検討（協働利用の条件、開始時期等）を始める。その手始めに、筑波大学で開設している「ワーク・ライフ・バランス相談室」「メンター制度」の相互利用を行う。具体的には、相談室については、各機関の相談体制の現状とニーズを把握した上で、連携諸機関の研究者が利用することが可能となるよう制度の整備を行う。また、メンター講習会を連携機関と共同開催し、相互利用型のメンター制度に向けた準備を行う。

更に、ライフイベント中の女性研究者（一部、男性研究者も含む）への研究補助者雇用支援制度を実施すると共に、「研究補助者雇用支援制度の適用範囲の拡大」、及び、「事業所内保育施設の相互利用」に向けても検討を始める。

(3) ワーク・ライフ・バランス意識啓発のための取組

筑波大学の教職員、及び連携機関の職員を対象とした、女性研究者支援とワーク・ライフ・バランス意識啓発のためのシンポジウムを、連携機関との共同開催事業として開催する。特に、講師としてトップレベルの研究者を招聘し、各組織の長の参加を促すなど、上位職を対象とした意識啓発活動とするように留意する。更に、筑波大学で開講している男女共同参画推進関連科目を連携機関にもPRし、連携機関の職員の受講を積極的に促す制度の構築に向けた検討を始める。また、意識啓発事業の共同事業として公開講座を実施する。

(4) 研究マネジメントリーダー育成のための取組

時代や組織の変化、様々なリスクにも的確に対応し、且つ研究成果を最大限に引き出すことができるよう、筑波大学と連携機関の研究者を対象として、連携機関と協働で、研究プロジェクト・マネジメントスキルを身につけるためのセミナー、及び個別相談を実施する。

(5) 研究シーズブラッシュアップ支援のための取組

女性研究者支援情報交換、研究シーズ情報、各機関のワーク・ライフ・バランス支援の取組等を掲載したWebサイトを構築し、女性研究者支援の連携の取組をアピールすると共に、研究シーズを積極的にPRする。

「研究成果公表力アップ」「ファンド獲得実践セミナー」を大学女性研究者、及び、連携機関の女性研究者を対象に、筑波大学及び連携機関もしくは連携機関の研究者が参集しやすい場所を会場に協働して開催する。講師には、連携機関もしくは外部機関に所属するトップレベルの研究者を招聘し、講演終了後に情報交換及び勉強会を実施する。



3. 「女性研究者支援協議会」の設置

平成25年度は「女性研究者支援連絡協議会」を設立するために、その準備会を平成25年12月、平成26年1月に開催した。

第1回「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」発足準備会

「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」発足準備会

日 時：平成25年12月16日（月）15：00～17：00

場 所：筑波大学 本部棟5階 大会議室

議 事 次 第

1. ご挨拶／本協議会発足の主旨
2. 議題
 - (1) 拠点型事業についての説明
 - (2) 各参加機関紹介
 - (3) 今後の取り組みについて（案）
 - ① 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」会則について
 - ② 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」合同シンポジウムについて
 - ③ 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」広報活動用パンフレット・ロールモデル集について
 - ④ 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」のウェブサイトについて
 - ⑤ ニーズ（アンケート等）調査について
 - ⑥ 相談室の開放等について
 - ⑦ セミナー開催について
 - ⑧ その他
 - (4) 意見交換

【配布資料】

- | | |
|----------------------------------|---|
| 資料1 | 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」について |
| 資料2 | 連携機関紹介資料 |
| 資料3 | 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」会則（案） |
| 資料4 | 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」合同シンポジウム概要（案） |
| 資料5 | 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」広報活動用パンフレット・ロールモデル集（案） |
| 資料6 | 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」ウェブサイト概要 |
| 資料7 | ニーズ（アンケート調査）概要 |
| 資料8 | 相談室の開放等について（案） |
| 資料9 | セミナー開催概要（案） |
| 【参考】 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」名簿 | |

第2回「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」発足準備会

「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」発足準備会

日 時：平成 26 年 1 月 27 日（月）10：00～12：00

場 所：筑波大学総合研究棟 A107 室（プレゼンルーム）

議 事 次 第

1. ご挨拶
2. 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」協力機関の紹介
3. 前回議事要旨（案）の確認
4. 議題
 - ① 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」会則について
 - ② 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」キックオフシンポジウムについて
 - ③ セミナー開催について
 - ④ 今後の協議会の進め方について
 - ・どのような事柄を協議会として行うことができるか
 - ・今後の会議スケジュールについて

【配布資料】

- 【資料 1】 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」協力機関
- 【資料 2】 前回議事要旨（案）
- 【資料 3】 「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」会則（案）
- 【資料 4】 ①「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」キックオフシンポジウム概要（案）
②ポスターおよびチラシ（案）
③パネルディスカッション（案）
④共同宣言に向けて（案）
- 【資料 5】 セミナー開催概要（案）／別紙（チラシ）
- 【資料 6】 本協議会における連携の方向性について
- 【資料 7】 今後のスケジュール（案）
- [参考 1] キックオフシンポジウム活動紹介パネルについて
- [参考 2] 座席表



III

ダイバーシティ推進事業



Ⅲ ダイバーシティ推進事業

1. 意識啓発事業

①「つくば女性研究者支援協議会」キックオフシンポジウム

2013年2月19日に筑波大学と「つくば女性研究者支援協議会」との共催で「つくば女性研究者支援協議会キックオフシンポジウム・ポスター展」を開催した。シンポジウムに参加できなかった方々からの要望もあり、シンポジウムの模様は2014年3月に報告書（別刷り）・DVDとして刊行し、本プログラムの周知活動に活用している。また、シンポジウムの模様はNHKのローカル放送で取り上げられるなど、「つくば女性研究者支援協議会」への地域の関心は高い。

実施報告

プログラム	女性研究者研究活動支援事業（拠点型）
実施日	2014年2月19日（水）13:00～17:00
場所	筑波大学大学会館3階国際会議室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（ ）
	展示物：有（機器・設備） パネル ビデオ上映 体験型 その他（ ） 無
対象者	一般 研究者 学生（大学院生） その他（大学教職員、研究所職員）
来場者	人数：125名（内訳 研究者33名/大学院生19名/教職員50名/不明23名）
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース HP メール発信 その他（学内外チラシ・ポスター配布）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ推進室 世界で活躍する女性研究者の育成と支援～産学連携を通して
内容	<p>つくばにゆかりのある民間企業、研究所、大学等が「つくば女性研究者支援協議会」を発足し連携を図りながら女性研究者の研究力向上、及びワーク・ライフ・バランスの支援に取り組んでいることを内外に周知し、研究教育分野において世界で活躍する女性を増やしていくことへの関心と理解を得ることを目的として、協議会発足のためのキックオフシンポジウムを開催した。</p> <p>前半は、文科省から事業趣旨説明があり、内閣府男女共同参画局長佐村知子氏による基調講演、日本化学会フェロー/産業技術総合研究所名誉リサーチャー相馬芳枝氏による特別講演が行われた。後半は、7機関（アステラス製薬、茨城県立医療大学、エーザイ、産総研、日本IBM、農研機構、筑波大学）による女性ダイバーシティへの取り組み活動紹介があり、「世界で活躍する女性研究者を支える環境づくり」をテーマにパネル討論を行った。</p>
効果、問題点	<p>基調講演および特別講演では、日本における女性研究者の現状と期待、そしてこれからの研究者に求められる事柄等、今後の女性研究者支援を進める上で示唆に富むお話をご教示をいただいた。また、事業趣旨説明では本事業を期待するメッセージを頂戴した。講演を通じて、参加者一同、女性研究者支援に対して一層意識を高めることができた。</p> <p>パネルディスカッションでは意見交換が活発に行われ、様々な組織の取り組み状況を学ぶと共に、協議会の方向性を考える機会となった。また、このシンポジウム開催により、「つくば女性研究者支援協議会」発足のキックオフを周知することが出来た。</p>



②公開講座

平成24年度に引き続き、2013年12月8日、15日の2日間、筑波大学ダイバーシティ・リサーチグループとの共催で、筑波大学公開講座「多様性（ダイバーシティ）とは何か～21世紀流の「インクルーシブ（包摂）社会」を考える～」を東京キャンパスにて開講した。

【第1回 12月8日（日）】

■講師・講演題目

「Boschにおけるダイバーシティ/人を育てるダイバーシティ」 Bosch株式会社取締役副社長 森川典子氏
「スポーツにおけるダイバーシティマネジメント」 筑波大学体育系准教授 山口 香氏

■参加者：17名 [内訳 一般10名/学内3名/スタッフ4名（推進室3名/筑波大学大学院生1名）]

■ダイバーシティ推進室 庄司一子室長からの挨拶の後、Bosch株式会社取締役副社長 森川典子氏より「Boschにおけるダイバーシティ/人を育てるダイバーシティ」についてのご講演をいただいた。「花火を上げることは、意外に簡単ですが、その余韻を継続させていくことは難しいものです。抽象的、観念的なものほど具体的に証明し、可視化して示すことが大切です。」と述べ、目標の立て方、達成への道筋を具体的にお話しされた。

続いて、筑波大学体育系山口香准教授から、「スポーツにおけるダイバーシティマネジメント」についてお話しをいただいた。ご自身の体験とデータを示しながら、なぜスポーツ組織にダイバーシティが必要なのか、そして新しい事に取り組むスピリットの有無が、組織の行方を左右すること等を話された。受講者からは新たな気づきがあったとの感想を得た。

講義終了後の質疑応答の時間では、多数の質問があり、活発な議論が行われた。



開会挨拶



会場の様子



山口氏の講義の様子



森川氏の講義の様子

【第2回 12月15日（日）】

■講師・講演題目

「視覚障害の立場からダイバーシティを考える」筑波大学人間系教授 柿澤敏文氏

「ダイバーシティマネジメントによる国づくり・大学づくり」

筑波大学ダイバーシティ推進室准教授 幅崎麻紀子氏

■参加者：13名〔内訳 一般7名/学内3名/スタッフ3名（推進室）〕

■人間系視覚障害学が専門の柿澤教授より「視覚障害の立場からダイバーシティを考える」と題しご講演をいただいた。視覚障害と社会とのかかわりを過去、現在から解説され、新たな障がい観の試みをお話いただいた。「病みながら生きる」「病めるものと共に生きる」などダイバーシティの観点から病気・障がいを通して社会が成長し、発達する可能性を示され、受講生からはダイバーシティのとらえ方を身近に感じたとの感想があった。続いて、ダイバーシティ推進室副室長幅崎准教授より現在の日本の大学のダイバーシティの現状と、ダイバーシティ推進プログラムの背景、目的および特徴についての説明があり、筑波大学の取り組みが具体的に示された。質疑応答の時間では、受講者の属する現場のダイバーシティ推進の状況との類似点や相違点など、多くのコメントが寄せられた。

※今後の改善点並びに課題等

参加者からは講義時間が短く、物足りなさを感じたという感想があった。

東京キャンパス開催のため、東京在住者への広報活動が必要だが、筑波からの広報がなかなか届きにくい。公開講座の案内方法の改善が必要である。



柿澤氏の講義の様子



幅崎氏の講義の様子



③ダイバーシティ・セミナー

平成24年度より「ダイバーシティ・セミナー」として、ワーク・ライフ・バランス意識啓発、マネジメント力アップ、研究力アップを目的として連続セミナーを開催した。詳細は下記の通りである。

ダイバーシティ・セミナー 第1回

セミナー名	未来を切り開くリーダーになるために——女性のためのリーダー研修
実施日	2014年1月31日（金）9:00～16:30
場所	筑波大学中央図書館2F集会室
形式	一般公開・シンポジウム・ <u>セミナー</u> ・講演会・ワークショップ・その他（ ） 展示物：有（機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他（ ）） 無
対象者	一般 <u>研究者</u> 学生（大学院生） <u>その他</u> （大学教職員、研究所職員）
来場者	人数：15名（内訳 大学院生（研究生）1名/教職員14名）
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース <u>HP</u> <u>メール発信</u> その他（学内外チラシ・ポスター配布）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ推進室
内容	<p>現在、リーダーとしての立場にある女性教職員、ならびにリーダーを目指す女性教職員を対象に、「未来を切り開くリーダーになるために～女性のためのリーダー研修」を開催した。</p> <p>講師は（株）インソースに依頼し、午前中はリーダーとして自分が果たす役割や自分のリーダーシップスタイルについて、グループワークを中心に進められた。午後は、リーダーとしてのスキルアップとして、思考の整理力、判断力、安定力について、講義、グループワークを行った。</p>
効果、問題点	<p>午前中の講義では、まず、現在の自分の立場の問題点とメリットを洗い出した。また、リーダー像は多様化しており、自らがリーダーに選ばれたことを気負うことなく、自信を持って取り組むことの大切さを確認した。</p> <p>午後は、女性がリーダーとして働く際に苦手とされる3つの事項について講義を行った。講師の話は非常に具体的で分かりやすく、「すぐに今後に活かしたい」「学生にも教えたい」という声が寄せられた。</p> <p>参加者の所属や職種は様々であったが、受講者同士が日常の業務で感じる不安や疑問について、共感する部分も多く、このセミナーで自らを振り返り、悩みを共有したことによって、思考を整理するきっかけになった。また、他機関、他部署の人と接し、人脈が広がったという意見も聞かれた。</p>
反省事項	セミナーを企画してから実施まで1ヶ月しかなかったため、周知期間を2週間ほどしか取ることができなかった。参加を希望する方が予定を調整できるよう、早めに周知する必要がある。
特記事項	このようなセミナーを希望する方は、潜在的にも多いと感じた。効果的なタイミング、内容で、今後も行っていきたい。

チラシ・
セミナーの様子



平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業(拠点型)

筑波大学ダイバーシティ推進室主催 第1回女性研究者支援セミナー

未来を切り開くリーダーになるために ～女性のためのリーダー研修～

■ 日時: 2014年1月31日(金)

(午前) 9時～12時 (午後) 13時半～16時半

■ 会場: 筑波大学中央図書館2F集会室

筑波大学所属の女性教職員

■ 対象: つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会参加機関(仮称)の女性職員他

■ 定員: 30名程度(先着順) ■ 締切: 1月27日(月)

研究・教育活動や組織運営、学内外においても、女性がリーダーとして活躍することが期待されています。

「グループを上手にまとめるには？」
「自分らしさを活かしたリーダーシップのスタイルとは？」

女性が様々な場面で感じる疑問や不安を、講義とワークショップを通して解消し、リーダーとしての自覚と自信、スキルを身につけましょう。

リーダーとしての立場にある方だけではなく、これからキャリアアップを望まれる方、未来のリーダーにお勧めです。
皆様のご参加をお待ちしております。

Program

【午前】9:00～12:00

1. 自分が果たす役割について考える
2. 自分のリーダーシップスタイルについて考える

【午後】13:00～16:30

1. リーダーとしてのスキルアップ①思考の整理
2. リーダーとしてのスキルアップ②判断
3. リーダーとしてのスキルアップ③安定力
4. 明日からの行動宣言

<講師:株式会社インソース 高橋百代>

■ 1日を通しての研修となりますが、午前・午後どちらかのみの参加も可能です。申込みの際に、希望の時間帯をお知らせください。

■ 無料託児サービスあり(要予約、年齢3ヶ月～6歳)。希望される方は1月21日までにお申込みください。

ダイバーシティ・セミナー 第2回

セミナー名	ワークライフデザインセミナーⅠ 自己実現編
実施日	2014年2月24日（月）13:30～14:30
場所	筑波大学総合研究棟A111ゼミ室
形式	一般公開・シンポジウム・ <u>セミナー</u> ・講演会・ワークショップ・その他（ ） 展示物：有（機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他（ ）） 無
対象者	<u>一般</u> <u>研究者</u> <u>学生（大学院生）</u> <u>その他</u> （大学教職員、研究所職員）
来場者	人数：18名（内訳 大学院生（研究生）17名/教職員1名）
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース HP <u>メール発信</u> <u>その他</u> （学内外チラシ・ポスター配布）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ推進室
内容	<p>エーザイ株式会社人財開発本部タレントディベロップメント部新庄浩子氏を講師に迎え、どのような人材やキャリアメイキング意識を持つ人材が企業において求められているのか、具体的なキャリアメイキングの方法など、学生とのトークセッションを交えながら講義が行われた。</p> <p>前半はエーザイ株式会社の企業理念や取り組みを紹介した。後半は、社会人としてのキャリアについて、新庄氏自身の例（社会貢献や自己実現という志を持って入社し、転部した現在でも同じ気持ちを持って取り組んでいるなど）を挙げて話を頂いた。学生たちからは、今後社会に出て行くにあたり不安に感じていることなどの具体的な質問が投げられ、的確な回答をいただいた。</p>
効果、問題点	<p>参加者の多くは学生であったが、参加者からは「実際に企業で働いている方の話を聞くことが出来て、就職、キャリアにとっても役立つと思う」「仕事をする前に、自分が何をやりたいのかきちんと決めたほうが良いということが分かった」などの感想が聞かれた。</p> <p>企業の第一線で活躍する方から具体的な話を伺い、対話できたことは、学生にとって非常に有意義な経験であり、これからのキャリアを考える上でも有用である。</p>

チラシ・
セミナーの様子



平成 25 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

第2回ダイバーシティセミナー

ワークライフデザインセミナーⅠ ～自己実現編～

教職員、学生
どなたでも
参加できます！
事前登録不要

■平成26年2月24日（月）13時半～14時半

■総合研究棟A 111ゼミ室

あなたのキャリアメイキング
一緒に考えてみませんか？

理系の研究者、人事担当として上場企業で活躍する講師を向かえ、どのような人材やキャリアメイキング意識を持つ人材が求められているのかなど、学生の皆さんとのトークセッションを交えながらお話いただきます。

■ゲストスピーカー



エーザイ株式会社
人財開発本部タレントディベロップメント部
新庄 浩子 氏

「自然体で歩む
自分らしいキャリアと自己実現」

薬学研究科 機能分子構造学専攻 修士課程修了。
2004年、エーザイ株式会社に創薬研究職として入社。
筑波研究所にて、主に新薬の原薬候補化合物の探索研究（分析/物性研究）に約7年半従事。
その間、米国ボストン近郊の研究所への短期派遣を経験。その後、2011年7月に、人財開発
担当へのキャリアチェンジを経て、現在は、人財育成全般とダイバーシティ推進を担当。

■モデレーター

筑波大学
ダイバーシティ推進室
幅崎 麻紀子



ダイバーシティ・セミナー 第3回

セミナー名	ワークライフデザインセミナーⅡ パパ・ママ編
実施日	2014年2月25日（火）13:30～15:30
場所	筑波大学総合研究棟A111ゼミ室
形式	一般公開・シンポジウム・ <u>セミナー</u> ・講演会・ワークショップ・その他（ ） 展示物：有（機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他（ ） 無
対象者	一般 <u>研究者</u> <u>学生（大学院生）</u> <u>その他</u> （大学教職員、研究所職員）
来場者	人数：23名（内訳 大学院生（研究生）20名/教職員3名）
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース <u>HP</u> <u>メール発信</u> <u>その他</u> （学内外チラシ・ポスター配布）
実施者	筑波大学ダイバーシティ推進室
内容	Office.YASAKA代表であり、NPO法人コヂカラ・ニッポン副代表も務める八坂貴宏氏ならびに、佐賀大学男女共同参画推進室特任助教の宮地歌織氏を講師に迎え、子育てと仕事を楽しむ方法、家庭と職場での役割分業の見直し方などについて、父親、母親の立場から講義を行った。 まず、八坂氏からは、父親としての育児参加や地域活動について、ご自身の活動を具体的に挙げながら、詳しく講義をして頂いた。次に宮地氏から、研究者としての現在までの活動や、結婚、子育て、介護などの個人的な活動についてお話をしていただいた。その後、参加者を含めたディスカッションを行い、活発な意見交換がなされた。
効果、問題点	両氏ともにワークライフバランスについての理解を深めるのに役立つ具体的な例を多く挙げていただいた。参加者からは、「周りに似た境遇の人がいないので、話が聞けて良かった」「就職後の生活と仕事のバランスをどう取るのか、勉強になった」という声も聞かれた。

Ⅲ

チラシ・
セミナーの様子



第3回ダイバーシティセミナー

平成 25 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

ワークライフデザインセミナーⅡ ～パパ・ママ編～

■平成26年2月25日（火）13時半～15時半

■総合研究棟A 111ゼミ室

教職員、学生
どなたでも
参加できます！
事前登録不要

仕事、子育て、父親としての自分、母親としての自分。
想像したことはありますか？理想通りですか？

お二人のゲストスピーカーと共に、子育てでも仕事も楽しむ方法、家庭と職場での
男女の役割分業の見直し方等々について、父親、母親の立場から考えましょう。

■ゲストスピーカー



office.YASAKA代表／NPO法人コヂカラ・ニッポン副代表
八坂 貴宏 氏

「人生も育児も楽しむ親になろう！
～家庭・職場・地域でイキイキ生きるためにできること～」

生命保険会社の営業担当、営業研修部、営業企画部を経て、「office.YASAKA」を設立し、教育
コンサルタント業として独立。企業や行政等で教育研修、社員研修など多くの実績を持つ。
「子どものチカラを伸ばし、大人が輝く」ことを目的としたNPO法人コヂカラ・ニッポンの副
代表を務め、育児に関する講座も多く行う。



佐賀大学男女共同参画推進室 特任助教
宮地 歌織 氏

「人生はチャレンジの連続！
～研究・キャリア・子育てとの間で～」

筑波大学第三学群国際関係学類（現：国際総合学類）卒業後、東京都立大学（現：首都大学
東京）を経て、英国サセックス大学大学院にて開発人類学を学ぶ。大学時代から、世界各国
を回り、妊娠や出産に関わる文化人類学的な調査や活動を実施してきた。2012年より佐賀大
学男女共同参画推進室で特任助教として勤務。フランス人の夫と5歳の息子とともに福岡県在住。

■モデレーター
筑波大学
ダイバーシティ推進室
幅崎 麻紀子



ダイバーシティ・セミナー 第4回

セミナー名	外部資金獲得セミナー
実施日	2014年3月3日（月）13:30～15:00
場所	筑波大学3B棟3B213プレゼンルーム
形式	一般公開・シンポジウム・ セミナー ・講演会・ワークショップ・その他（ ） 展示物：有（機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他（ ）） 無
対象者	一般 研究者 学生（大学院生） その他 （大学教職員、研究所職員）
来場者	人数：20名（内訳 研究者3名/大学院生（研究生）3名/教職員14名）
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース HP メール発信 その他 （学内外チラシ・ポスター配布）
実施者 関連サブテーマ	筑波大学ダイバーシティ推進室
内容	筑波大学北アフリカ研究センターの磯田博子教授と筑波大学URA研究支援室の加藤英之主幹リサーチアドミニストレーターが、外部資金獲得のためのノウハウ、及び、女性研究者向けの公募研究女性プログラム等の情報提供のための講義を行った。
効果、問題点	磯田教授による「多面的バイオアッセイ技術に基づく研究費申請とその成果について」の講演では、ご自身の研究と外部資金との関わりについて分かりやすく参加者へ伝えられた。 加藤主幹による「外部資金獲得率を上げる戦略」の講演では、科研費の申請について、種類、額、細目、審査基準、データベースの利用、申請書の書き方のコツや、今までご自身が培ってきた具体的なノウハウ等、参加者が必要としている情報が提供された。 質疑応答の時間には、これから初めて科研費を申請しようと考えている大学院生や研究者、あるいは、研究者の支援をしている職員から、申請に関する具体的な質問が活発に出された。

III

チラシ・
セミナーの様子



平成 25 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

第4回ダイバーシティセミナー

外部資金獲得セミナー

「外部資金をなかなか獲得できない」
「どのような外部資金があるのか詳しく知りたい」
外部資金獲得のためのノウハウや女性研究者向けの公募研究助成プログラム等について
皆様に情報提供いたします。是非ご参加ください。

■ 日 時 平成26年3月3日(月) 13:30～15:00

■ 会 場 筑波大学 3B棟 3B213プレゼンルーム

■ 対 象 筑波大学所属の教員、大学院生
つくば女性研究者支援協議会参加機関、協力機関の教員、他
(主に女性教員、女性大学院生を対象にしておりますが、外部資金獲得について
ご興味をお持ちの男性の方もご参加いただけます)

■ 定 員 50名程度

■ 申込方法 資料作成の都合上、「所属・氏名・役職・連絡先(Eメール、電話番号)」を記載の上、
2月27日(木)までにdiversity@un.tsukuba.ac.jpまでお知らせ願います。
(当日参加も可能です)

■ プログラム

13:30～14:00 「多面的バイオアッセイ技術に基づく研究費申請と
その成果について」

講師: 礪田博子(筑波大学北アフリカ研究センター教授)

14:00～14:30 「外部資金獲得率を上げる戦略」

講師: 加藤英之(筑波大学研究推進部研究企画課
戦略イニシアティブ推進機構研究支援室主幹)

14:30～15:00 質疑応答

司会: 幅崎麻紀子(筑波大学ダイバーシティ推進室)

④学群総合科目「ワーク・ライフ学Ⅰ・Ⅱ」、大学院共通科目「仕事と生活と男女共同参画Ⅰ・Ⅱ」

学群総合科目Ⅰとして春AB学期に「ワーク・ライフ学Ⅰ——『仕事と生活』と男女共同参画」、学群総合科目Ⅱとして秋AB学期に「ワーク・ライフ学Ⅱ——ライフイベントとリスクマネジメント」を開講した。

「ワーク・ライフ学」では、現代の社会現象を「ライフイベント」をキーワードに、その解明と解決に向けて学ぶことを目標に、「ワーク・ライフ学Ⅰ」では、仕事や家庭、地域生活において、多様な生き方を受容し自分らしい生活を実践できるよう、働き方を見つめ直すと共に、就職・結婚・出産・子育て・介護等のライフイベントを題材に、ワーク・ライフ・バランスを視野に入れた将来設計のための手段・方法について学んでいる。「ワーク・ライフ学Ⅱ」では、ワーク・ライフ・バランスの視点から、個人の生活や個人を取り巻く人間関係、組織や地域社会でどのような問題が生じているかを、身近なライフイベントを通して理解すると共にその問題に対処していく方策について学んでいる。ワーク・ライフ学Ⅰの受講者は94名、ワーク・ライフ学Ⅱの受講者は22名で、多様な学群の学生が受講した。

大学院共通科目では、9月に「仕事と生活と男女共同参画Ⅰ——WLB（ワーク・ライフ・バランス）を軸に未来予想図を描こう」、2月に「仕事と生活と男女共同参画Ⅱ——WLB（ワーク・ライフ・バランス）を軸に未来予想図を描こう」を集中講義として開講した。両講義は、ダイバーシティ・男女共同参画が社会理念になった歴史的社会的経済的背景についての理解を深め、仕事と家事・育児・介護等の家庭の役割を両立し、生き活きと生活するための将来設計の組み立てと見直し、そしてそれを実現していくための情報収集力や交渉力を養うことを目標として開講した。専門分野も年齢も異なり、外国籍、既婚者、未婚者、育て経験者など多様な大学院生が受講生として集まった。講義では、企業の実務に携わる外部講師の講演、受講者同士のディスカッション、プレゼンテーションが行われた。受講者は「仕事と生活と男女共同参画Ⅰ」は33名、「仕事と生活と男女共同参画Ⅱ」は13名であった。

本授業への社会の関心は高く、「転ばぬ先の人生設計教えます」と題して、NHK総合おはよう日本にて放送されている（平成25年11月29日）。



大学院の授業の様子



学群の授業の様子



III


ダイバーシティ推進事業

平成25年度 総合科目

**ワーク・ライフ学を学んで、
人生を切り開く「力」を養いませんか！！**

■ 総合科目Ⅰ（科目番号1226011）
春学期AB木曜 6時限：2B508教室
ワーク・ライフ学Ⅰ
「仕事と生活」と男女共同参画

■ 総合科目Ⅱ（科目番号1C26091 複合分野）
秋学期AB月曜 2時限：2A414教室
ワーク・ライフ学Ⅱ
**ライフイベントと
リスクマネジメント**




ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭役割の両立）を軸に、現代社会の仕組み・問題について学び解決に向けた筋道を探ります。

筑波大学 ダイバーシティ推進室 准教授 幅崎麻紀子
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 本部棟（低層棟3F）
TEL：029-853-8504 E-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL：http://diversity.tsukuba.ac.jp

平成 25 年度 大学院共通科目 キャリアマネジメント科目群



「仕事と生活」と男女共同参画Ⅰ
Work and Life in a Gender Equal Society
Work Life Balance and Career Planning



2日間集中講義 科目番号01ZZ503
9月25日(水) 9月30日(月)
場所：総合研究棟A111 時間：9:30～17:00
9月30日(月)ゲスト講師
㈱日立ソリューションズ人事総務統括本部
ダイバーシティ推進センタ長 久永美砂氏
WLB(ワーク・ライフ・バランス)を軸に未来予想図を


授業概要：産業化、技術革新による変化にともない、組織の中で働く人々の生活や人間関係に、組織や地域社会でどのような問題が生じているか、男女共同参画の歩みや、ワーク・ライフ・バランスの各施策を踏まえて考察する。

授業内容： 「男女共同参画社会」の歴史的背景、
「ワークライフバランス(WLB)」とは？
企業の WLB 施策、
WLB と職業選択/ライフプランニング、
ストレスマネジメントの方法とは？



ダイバーシティ推進室副室長
准教授 幅崎 麻紀子

筑波大学ダイバーシティ推進室
〒305-8577
茨城県つくば市天王台1-1-1
本部棟(低層棟3F)



Office of Diversity
University of Tsukuba

ポスター



2. 環境整備事業

①研究・業務補助者雇用経費助成制度

筑波大学では平成23年度より、出産・育児等で研究が中断しやすい女性研究者等の研究継続支援事業として、「育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成制度」を実施している。また、平成22年度より、管理運営業務等に携わる男女格差の是正のため、「管理企画業務等の大学運営に参画する女性研究者に対する補助者派遣事業」を実施し、24年度からは、対象者に外国人等を加え、「管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助者雇用経費助成制度」を実施している。

平成25年は研究補助者雇用経費助成として9名の研究者への助成を実施し、管理企画業務等の大学運営に参画する女性研究者に対する業務補助者雇用経費助成として9名の研究者への助成を実施した。本助成を受けた研究者の所属・職階級は下記の通りである。

研究補助者雇用経費助成制度利用者

性別	所属	職名	申請理由
女性	医学医療系	助教	育児
女性	医学医療系	助教	介護
女性	人間系	准教授	育児
女性	医学医療系	准教授	育児
女性	生命環境系	助教	育児
女性	医学医療系	講師	育児
女性	生命環境系	助教	妊娠中
女性	医学医療系	准教授	介護
女性	芸術系	准教授	育児

業務補助者雇用経費助成制度利用者

性別	所属	申請理由(職名)
女性	図書館情報メディア系	教授、研究科長
男性	ビジネスサイエンス系	教授、専攻長
女性	医学医療系	教授、専攻長
女性	医学医療系	教授、専攻長
女性	医学医療系	教授、専攻長
男性	ビジネスサイエンス系	教授、専攻長
女性	人間系	教授、専攻長
女性	人間系	教授、室長
女性	システム情報系	教授、専攻長

②育児クーポン

平成22年度よりこども未来財団の行っているベビーシッター育児支援事業を活用して、在宅保育サービスを利用する際に料金の一部を助成する「ベビーシッター育児クーポン」の発行を実施している。同制度の利用状況は下表のとおりである。平成25年度の利用は前年度までに比べて、3倍以上（申請枚数ベース）に伸びている。

	利用申込者数	申請枚数	利用回数
22年度	7人	30枚	13枚(5人)
23年度	3人	15枚	6枚(1人)
24年度	6人	50枚	32枚(4人)
25年度	8人	183枚	147枚(5人)

3. 相談事業

①相談室「あう」

ダイバーシティ推進、就業上の様々な相談に対する相談対応窓口として、「ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”」を平成22年度より運営している。平成25年度は、相談員による相談は毎週金曜日と隔週水曜日であった。平成25年度（平成25年4月1日～平成26年2月末）の相談利用延べ件数は47件、相談実人数は36人（男性12人（33.3%）、女性24人（66.7%））であった。

月別の相談延べ件数、月次延べ利用者数及び新規利用者数、相談内容別人数及び相談者の属性は下記の通りである。

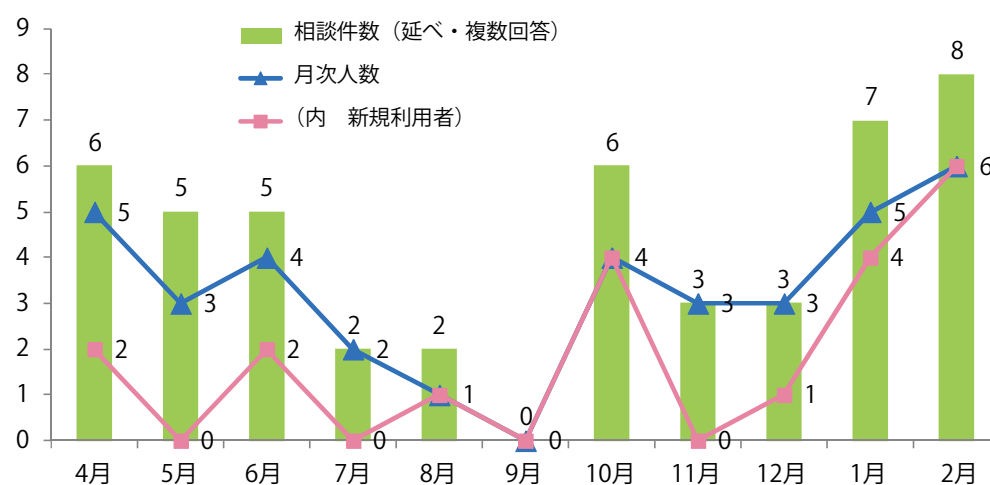


図1 相談月別推移

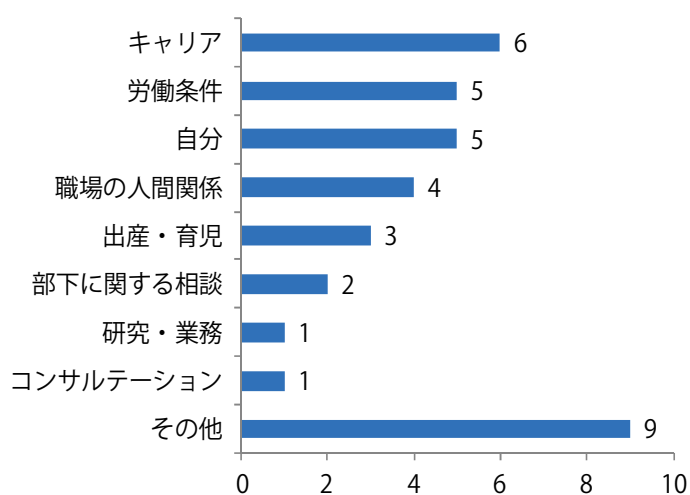


図2 相談内容別人数

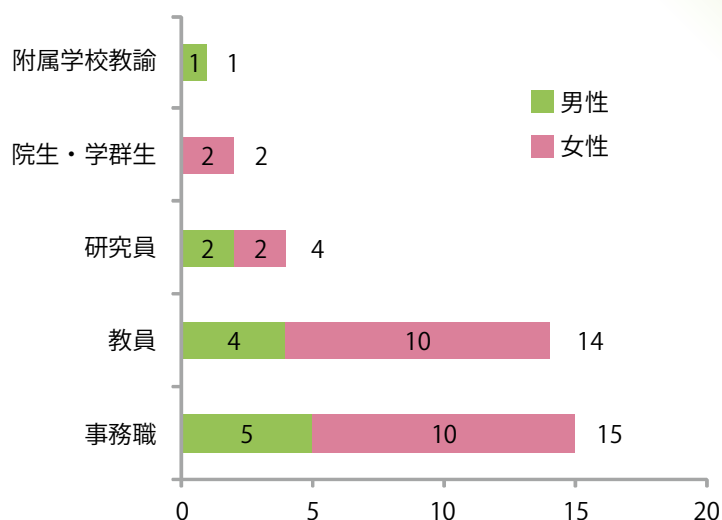


図3 相談者属性別人数

＜相談・対応の特徴＞

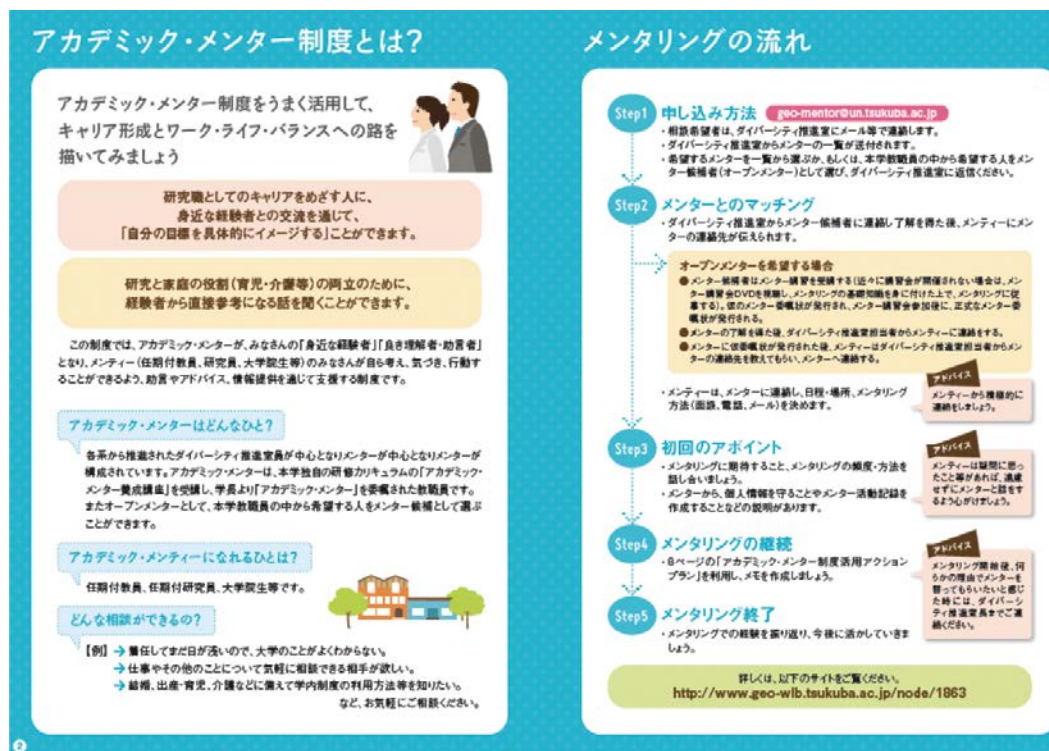
育児休業取得申請の際に、上司や同僚の理解を得ることが難しい状況についての相談が寄せられるなど、「出産・育児」の問題は、「キャリア」や「研究・業務」にも密接に関連している。相談室では、育児休業取得を円滑にするため、相談者と共に復職後の働き方について明確に考えるプロセスの支援を行った。その結果、周囲への働きかけが改善され、上司や同僚からの理解を得やすい環境作りが可能となった。

上司による仕事方法の無理解、人事異動に伴う問題、職場の人間関係の派閥化、休みがちな部下の対応など、職場環境についての相談が多々寄せられている。上司等のタイプを知り対処方法を検討するなど、相談者個人のレベルでできる事と、職場・部署等の組織に対して何らかの対処を求める事に分けながら、相談者の状況の把握と共に、相談者の考えや気持ちを整理するための支援を行った。

相談の中には、問題は明確ではあるものの、上司や周囲からの協力が得られない事例や、問題として取り合ってもらえない事例など、解決が困難な事例があった。これらの問題解決に向けて、他部署と連携して支援すると同時に、相談者本人が改善にむけた方向性を持てるように支援を行った結果、相談者の生活やキャリアの充実につなげることとなった。

②アカデミック・メンター制度

平成22年度より、アカデミック・メンター制度を実施している。各研究科から推薦された男女共同参画推進室員を中心に、アカデミック・メンター養成講座を受講した教職員が、メンティー（任期付教員、任期付研究員、博士学生等）の研究キャリア継続に関する相談、大学における仕事と家庭役割の両立相談について、アドバイスや情報提供を行っている。平成24年度にはアカデミック・メンター・ハンドブックを作成し、本制度の周知とメンタリング希望者のメンターとのマッチングを実施中である。



アカデミック・メンター・ハンドブック

4. 調査事業

今年度初めての試みとして「全学ジェンダー別、国籍別、教員応募／教員採用比率調査」を実施した。その結果、部局によってかなり異なるものの、全学的な傾向としては採用比率だけでなく応募比率もまたジェンダーによって差異があることがわかった。また、国籍別の結果からは、外国籍者の採用比率が応募比率に比べて5ポイント低くなっていることが明らかとなった。本調査は毎年継続し、経年変化を見ていく予定である。

教員採用比率（男女別、国籍別）調査結果

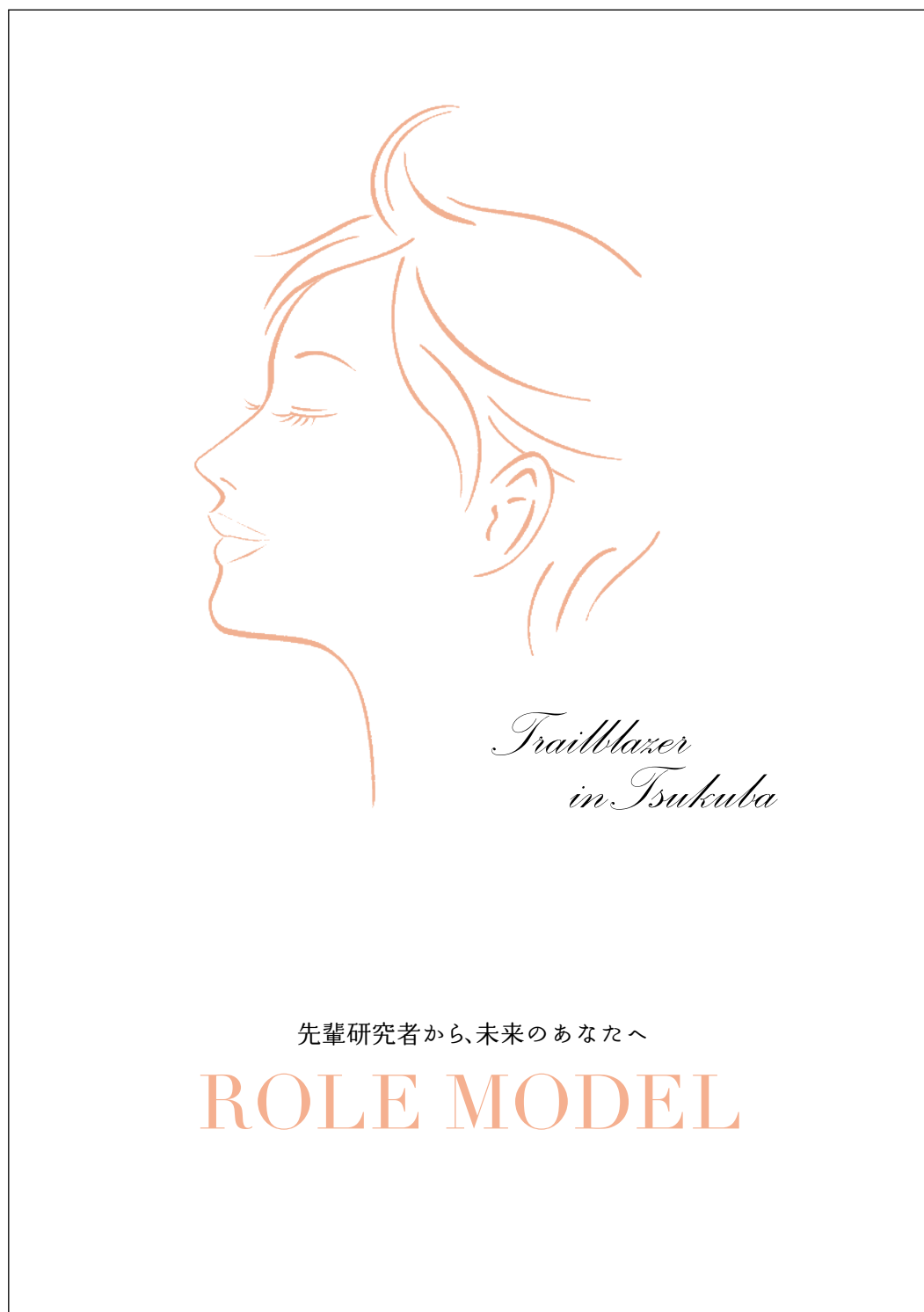
応募比率		採用比率	
男女別	国籍別	男女別	国籍別
男 82%	日本籍 84%	男 81%	日本籍 89%
女 18%	外国籍 16%	女 19%	外国籍 11%

期間：平成23年4月～平成25年3月
全10系のうち9系のデータより作成

5. 裾野拡大事業

①ロールモデル集の作成・活用

本学及びつくば地域内の女性研究者（育児中の男性研究者を含む）の仕事とライフスタイルを示すことで、次世代の女性たちに研究の道に進むことの魅力を伝えるため、ロールモデル集「Trailblazer in Tsukuba 先輩研究者から、未来のあなたへ」を刊行した。本ロールモデル集は、本学女子大学院生を中心に配布し、また大学院共通科目講義で活用するなど、後進の育成に役立てている。



ROLE MODEL Contents



筑波大学 人文社会系
准教授
山口 恵里子さん
Yamaguchi Eriko
6p

筑波大学 人文社会系
准教授
谷口 陽子さん
Taniguchi Yoko
14p

独立行政法人森林総合研究所
立地環境研究領域
養分動態研究室 主任研究員
長倉 淳子さん
Nagakura Junko
22p

筑波大学 芸術系
准教授
李 昇姫さん
Lee Seung Hee
7p

筑波大学 体育系
教授
本間 三和子さん
Honma Miwako
15p

独立行政法人
農業・食品産業技術総合研究機構
果樹研究所 品種育成・病害虫研
究領域 主任研究員
上地 奈美さん
Uechi Nami
23p

筑波大学 システム情報系
准教授
金子 暁子さん
Kaneko Akiko
8p

筑波大学 ビジネスサイエンス系
准教授
小林 和子さん
Kobayashi Kazuko
16p

独立行政法人
農業・食品産業技術総合研究機構
中央農業総合研究センター
土壌肥料研究領域 主任研究員
草 佳那子さん
Kusa Kanako
24p

筑波大学 体育系
准教授
麻見 直美さん
Omi Naomi
9p

筑波大学 芸術系
准教授
田中 佐代子さん
Tanaka Sayoko
17p

独立行政法人農業環境技術研究所
生物多様性研究領域 上席研究員
西田 智子さん
Nishida Tomoko
25p

筑波大学 医学医療系
准教授
小島 真奈さん
Obata Mana
10p

筑波大学 数理工学系
准教授
梁 松さん
Liang Song
18p

独立行政法人農業環境技術研究所
企画戦略室 主任研究員
岩崎 亘典さん
Iwasaki Nobusuke
26p

筑波大学 ビジネスサイエンス系
講師
稲永 由紀さん
Inenaga Yuki
11p

筑波大学 図書館情報メディア系
講師
森田 ひろみさん
Morita Hiromi
19p

独立行政法人産業技術総合研究所
知能システム研究部門
タスクビジョン研究グループ
上級主任研究員
喜多 泰代さん
Kita Yasuyo
27p

筑波大学 システム情報系
准教授
谷口 綾子さん
Taniguchi Ayako
12p

筑波大学 人間系
助教
**タスタンベコフ
クアニシさん**
Tastanbekova Kuanysh
20p

独立行政法人産業技術総合研究所
環境化学技術研究部門 副部門長
北本 大さん
Kitamoto Dai
28p

筑波大学 生命環境系
准教授
山路 恵子さん
Yamaji Keiko
13p

筑波大学 人間系
准教授
佐藤 有耕さん
Satoh Yuhkoh
21p

独立行政法人物質・材料研究機構
表界面構造・物性ユニット
表面物理グループリーダー
板倉 明子さん
Itakura Akiko
29p

※インタビューにおけるライターの執筆が一部含まれています。



②女子学生向け理系進路支援事業

平成25年度、独立行政法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援事業」の採択を受け、8月に「夏休みサイエンス体験合宿」、3月に「リケジョサイエンスカフェ」を実施した。茨城県内のみならず全国からの参加があり、夏期には定員を超える101名の参加があった。本プログラムはNHKの「ゆうどきネットワーク」で全国に紹介されるなど、理系女子育成プログラムへの全国的な関心の高さが伺える。理系女子育成プログラムは、引き続き平成26年度以降も継続する予定である。

企画名	発見しよう 理系の魅力！ 繋がろう 理系仲間！ in つくば ～ラボ実験合宿型、リケジョ育成プログラム～
タイトル	1. 夏休みサイエンス体験合宿 2. リケジョサイエンスカフェ
実施日	1. 平成25年8月5日（月）～平成25年8月7日（水） 2. 平成26年3月15日（土）
実施場所	1. 筑波大学 総合研究棟A、2H棟101、生物農林学系棟A 2. 筑波大学 医学エリア共同利用棟B、202室
参加者	1. 女子中高生101名（中学生48名、高校生53名）、保護者23名 2. 女子中高生57名（中学生33名、高校生24名）、保護者および教員28名
内容	<p>1. 夏休みサイエンス体験合宿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会式、基調講演、オリエンテーション ・女性科学者のロールモデルと語ろう（ラウンドテーブルカフェ） ・交流会、保護者セミナー「理系女子の将来」 ・1日サイエンス実験体験、サイバニクス研究センター見学 ・トークショー「リケジョになろう～気象キャスターのお仕事」 ・未来の自分は！？（中高生発表）、ワーク（合宿による意識の変化） ・閉会式など <p>2. リケジョサイエンスカフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・筑波大学附属病院陽子線医学利用研究センター見学 ・パネルディスカッション：女子中高生＆大学・研究所・企業 ・リケジョカフェ（交流会） ・閉講式

III

6. 他機関・他部局との連携

ダイバーシティ推進室では、常に学内外の機関との連携を持ちながら事業を展開している。学内では、他部局実施事業への参加やFD研修での情報提供等を行った。具体的には、FD研修において、人間総合科学研究科第3回FDプログラム（平成25年10月9日）、生命環境エリア運営会議（平成25年11月6日）にて、ダイバーシティ推進についての情報提供と意見交換を行った。

また、「筑波大学ダイバーシティリサーチグループ」の主催する学群総合科目「ダイバーシティスタディーズ入門」の第4回「ダイバーシティと組織マネジメント」（平成25年10月28日）、「つくばダイバーシティカフェ」では第6回「男女共同参画？それとも、ダイバーシティ？——大学における組織マネジメントの視点から」（平成26年3月25日）を担当した。また、同グループ2013年度報告書では「組織マネジメントフィールド」において「『未来を目指す活力』としてのダイバーシティ——筑波大学における組織マネジメントの視点から」を掲載している。

学外で開催されるシンポジウム等についても積極的に参加し、講演、口頭発表、ポスター発表を行うなど、情報収集と共に他機関との情報交換を実施している。茨城県主催事業では、「茨城県男女共同参画ネットワーク講座」において「ダイバーシティの推進」をテーマに講義を担当（平成25年7月31日）、「茨城県南生涯学習センター 茨城県弘道館アカデミー平成25年度後期講座」にて「現代社会における『家族』を考える——変容する家族、多様化する家族」（全10回連続講座）を実施した。また茨城県こども家庭課の「若者への意識啓発講座（大学生編）」に協力し、本大学において平成25年12月16日に同講座を開講した。

つくば市主催事業では、「つくば男・女（みんな）のつどい2013」の実行委員として参加すると共に、「つくば男・女（みんな）のつどい2013」（平成25年12月7日）ポスター発表、活動報告を行った。

筑波技術大学第2回FD研修会（平成25年12月4日）では「『出産・育児と教育・研究』の支援に向けて」をテーマに報告を行った。また、男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（平成25年10月7日）においてポスター発表、女性研究者支援事業合同シンポジウム（平成25年11月11日）においてポスター発表を行った。

①女性研究者支援事業合同シンポジウム 報告要旨・ポスター

筑波大学「人間の可能性と多様性の尊重 ダイバーシティ
ー持続的・包括的な教職員支援ー」

筑波大学は、男女共同参画社会の実現のために果たしていくべき社会的役割と責任を認識し、第3次「男女共同参画基本計画」や第4次「科学技術基本計画」に基づき、男女共同参画の推進に取り組んでいる。平成19年には「男女共同参画推進委員会設置」、平成20年には「男女共同参画推進室設置」「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念と基本方針」が策定され、平成21年には「持続可能な女性研究者支援、筑波大スタイル」が「平成21年度科学技術振興調整費（女性研究者支援モデル育成事業）」として採択され、平成24年3月まで3年間、同事業の支援を受けて環境整備に努めてきた。平成24年4月には、男女共同参画に加え、他国籍や障害をもつ教職員が安心して勤務できる環境作りをめざし、「男女共同参画推進室」を「ダイバーシティ推進室」へ改編し、「ダイバーシティ推進に係る基本理念・基本方針」を定めた。平成25年3月には「筑波大学 ダイバーシティ推進行動計画」の策定、8月には「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の採択を受け、男女共同参画・ダイバーシティ推進の環境拡充に邁進している。

■ダイバーシティの推進行動計画（計画年度：平成25年度～平成30年度）

1. 大学運営におけるダイバーシティの推進
2. 教育・研究・就業と家庭生活との両立支援
3. ダイバーシティ実現のための裾野拡大
4. 教職員・学生への啓発活動の推進
5. 地域社会・国際社会との連携を通じたダイバーシティの推進

（注）「若手、女性、外国人等」とは、左記に掲げた人々のみならず、性別、年齢、国籍や障がいの有無を超えた多種多様な人々を指す。

■持続的・包括的な教職員支援 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

<目標>

女性研究者がライフイベントと研究を両立し、能力を最大限発揮しうるよう、「女性研究者支援連絡協議会（仮称）」の会員である大学・企業と協働しながら、そのための環境作り及び支援活動を行う。本プログラムは筑波大学を中心に組織する「女性研究者研究支援連絡協議会」と連携協力を図りながら事業を進め、筑波大学においては、女性教員比率を平成27年度までに18%、平成35年度に20%へ、マネジメントに関わる女性在职者率を11.5%、女性研究者採用比率を23%とし、女性研究者の研究プロジェクトや研究業績数の増加、及び女性研究者の離職率の減少を目指す。連携機関においては、女性研究者比率や管理職女性研究者比率の上昇、女性研究者の離職率の減少をすることが目標である。

<女性研究支援のための3つのプログラム>

①ワーク・ライフ・バランス環境支援・意識啓発連携プログラム

○女性研究者の現状とニーズ・アンケート調査の実施と分析、○既存のワーク・ライフ・バランス支援資源の発掘と活用、○女性研究者支援ネットワーク憲章・協定の締結、○「ワーク・ライフ・バランス相談室」の開放、○事業所内保育施設の学外への開放の検討、○研究補助者雇用支援制度の適用範囲の拡大、○「メンター制度の相互利用とメンター育成プログラム」の開放、○女性研究者の採用・昇進等のための意識啓発シンポジウム、セミナーの開催、○女性研究者支援ネットワーク情報交換Webサイトの開設、○女性研究者の筑波地域での就職・再雇用のための支援、○「くるみんマーク」認定のための連携協力、○男女共同参画推進に関する授業科目の拡充と開放

②研究マネジメントリーダー育成連携プログラム

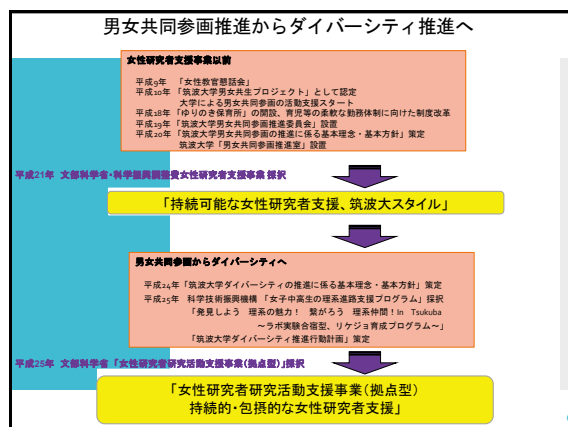
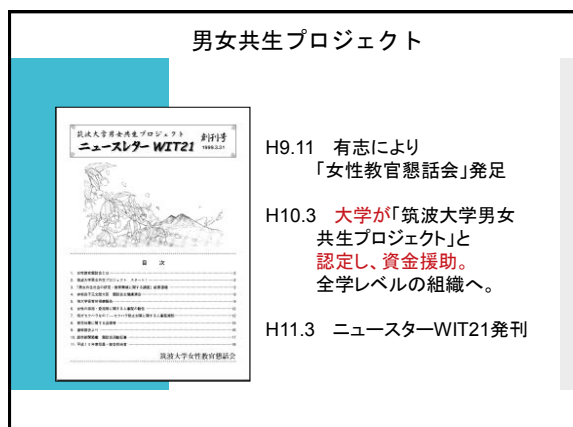
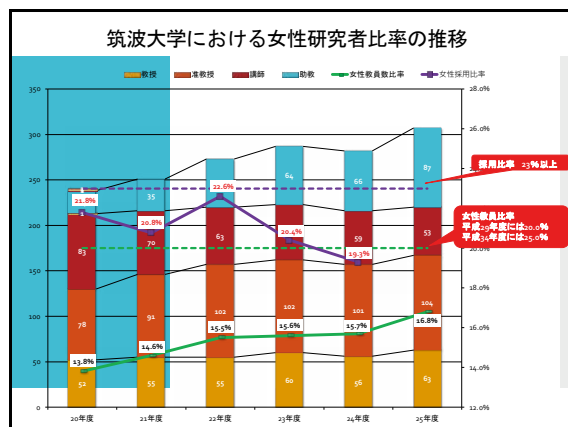
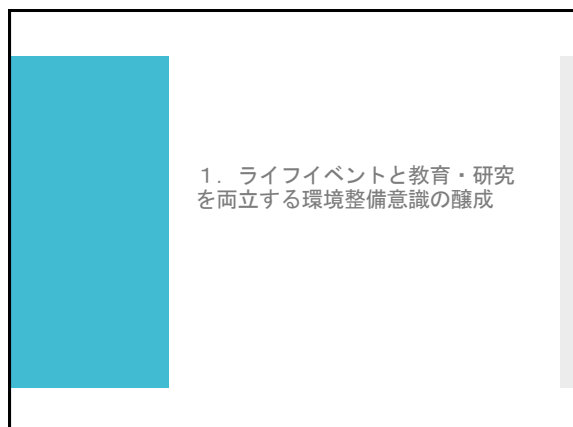
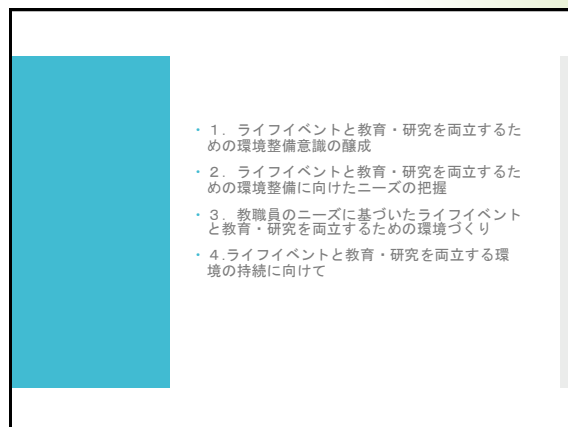
○研究力アップのためのセミナーの開催、○上位職への登用に向けたマネジメント力アップセミナー、○上位職への登用に向けたマネジメントスキル診断の実施

③研究シーズブラッシュアップ連携プログラム

○研究技術情報・研究シーズ情報データベースの構築、○研究シーズブラッシュアップ勉強会の開催

【連絡先】筑波大学 ダイバーシティ推進室 室長 庄司一子 E-mail : diversity@un.tsukuba.ac.jp
TEL : 029-853-8504 FAX : 029-853-8505 URL : http://www.geo-wlb.tsukuba.ac.jp/

②筑波技術大学第2回FD研修会 報告資料





III

ダイバーシティ推進事業

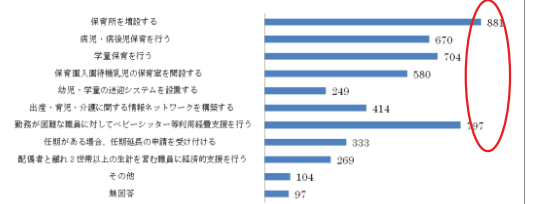
2. ライフイベントと教育・研究を両立するための環境整備に向けたニーズの把握

☆「男女共同参画アンケート調査」の実施(H20.10)
☆「男女共同参画推進のための施策に関するアンケート調査」の実施(H22.6)

対象:筑波大学全教職員 5,378部配布
回収率:37.3%(内訳:教員25%、事務系職員65%、附属学校教員36%)

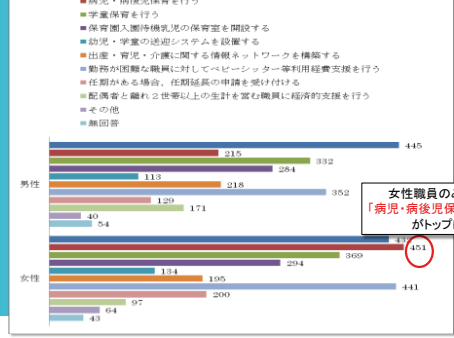
アンケート調査の回答欄。質問1から質問10まであり、各質問に対して回答者が記入した内容が記載されている。質問内容は、子育て支援、介護支援、研究支援に関するものである。

出産・育児・介護支援について必要な支援策



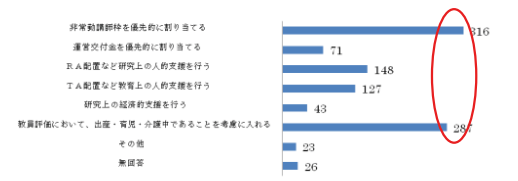
職員全体では「保育所を増設する」「ベビシッター等利用経費支援を行う」対応しました

出産・育児・介護支援について必要な支援策(男女別)



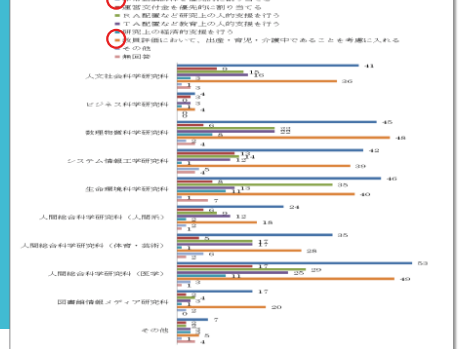
女性職員のみでは「病児・病後児保育を行う」がトップに

必要性の高い支援施策



「非常勤講師枠を優先的に割り当てる」「教員評価において出産・育児・介護の考慮」対応しました

研究科別必要な支援施策【大学教員】



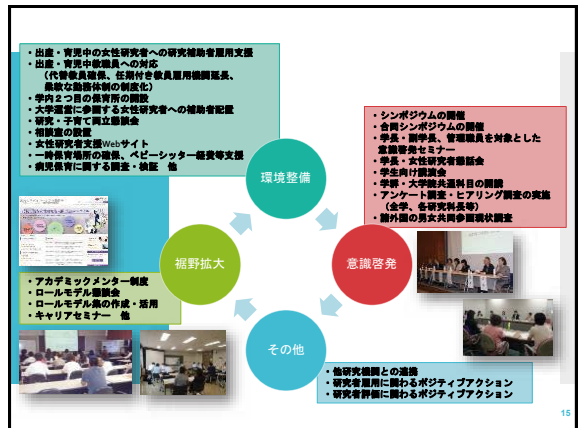


III

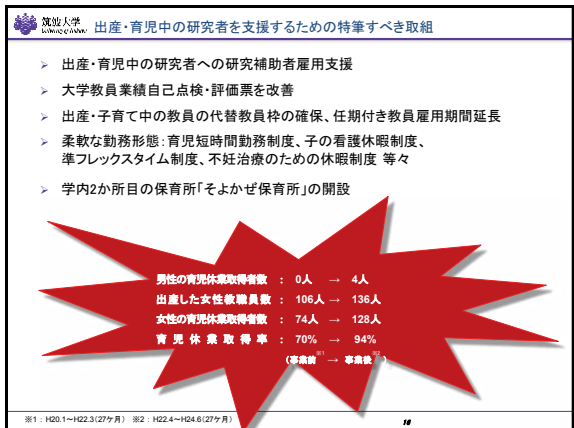
その他、必要と思われる出産・育児・介護の支援策(自由回答記述)					
施策・施策・支援策	件数	割合	女性	割合	
保育施設・保育サービスの拡充	48	27	17	1	
産後ケアの充実(産後ケアセンターや産後ケア施設)等	44	26	18	0	
休暇制度の活用(育児休業、産後休業、産前産後休業)	31	16	14	1	
代替職員確保	25	15	10	0	
育児・産後等の制度の拡充	24	19	5	0	
経済的支援の充実	21	12	9	0	
介護休暇制度の充実	8	6	2	0	
男性の育児・介護参加を促進する施策	8	4	4	0	
相談窓口の設置	7	5	2	0	
産後ケアセンターの設置	5	4	1	0	
制度の周知	5	5	0	0	
産後・育児中の職員に配慮した職場環境	4	4	0	0	
介護施設・介護サービスの整備	4	2	2	0	
人事異動の制度	4	4	0	0	
大学生・大学院生への支援拡大	4	2	2	0	
非常勤職員への支援拡大	4	4	0	0	
産後ケア後の職場復帰に対するサポート	3	2	1	0	
介護に関する情報支援サービス	3	0	3	0	
その他	21	8	13	0	
合計	270	167	101	2	

13

3. 教職員のニーズに基づいた
ライフイベントと教育・研究を
両立するための環境づくり



15



16

大学教員業績自己点検・評価記入票

① ② ③ ④ ⑤



4. ライフイベントと教育・研究
を両立する環境の持続に向けて

[illegible][illegible]

■ 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

女性研究者支援連絡協議会

女性研究者数：およそ600名

- 女性教員比率の増加**
 - ・筑波大学：H27年度 18%、H28年度 20%
（『学術年報』1996～2028年へ向上継続）
 - ・連絡機関：女性研究者比率の上昇
- 女性研究者の研究プロジェクト・研究業績数の増加：増加率25%**
 - ・マネジメントに関わる女性比率の増加
（連絡機関：管理職の女性研究者者比率の上昇）
- 女性研究者の離職率の減少**
- 女性研究者採用比率の増加**
- くろみんマーク認定機関の増加**
 - ・本事業で支援を受けた女性研究者：
 世界レベルの共同研究の組織・参加を目指す。
 ・女性研究者との交流、中高生へのキャリアアドバイザリープログラムを通して、進路女子学生・研究者の増加を目指す。

関係機関・大学：筑波技術大学、筑波学園大学、茨城国立国際大学、情報共有、(株)アビー、(株)生物分子計測研究所、(株)IBM、(株)エーザイ、研究系・勉強会、(株)アスラス（新薬）、(株)品管作業、(株)ヘルマンデザイン、大塚食品工業（株）、共同宣言

■ 女性研究者支援活動のための3つのプログラム

(A) ワーク・ライフ・バランス環境支援・意識啓発連携プログラム

- ・女性研究者の現状とニーズ調査の定期的実施と分析・改善
- ・WLB支援資源の発信と活用
- ・女性研究者支援ネットワーク憲章・協定の締結
- ・WLB相談室「あう」の開設等、「相談プログラム」の共有
- ・事業所内保育施設の相互利用の検討
- ・研究補助者雇用支援制度の適用範囲の拡大
- ・メンター制度の相互利用とメンター育成プログラムの開設
- ・女性研究者の採用・昇進等のための意識啓発シンポジウム・セミナーの開催
- ・女性研究者支援ネットワーク情報交換Webサイトの開設
- ・女性研究者の筑波地域での就職・再雇用のための支援
- ・「くるみんマーク」認定のための連携協力
- ・男女共同参画推進に関する教育目的の拡充と開放 など

(B) 研究マネジメントリーダー育成連携プログラム

- ・研究力アップのためのセミナーの開催
- ・上位職への登用に向けたマネジメント力アップセミナー
- ・上位職への登用に向けたマネジメントスキル診断の実施 など

(C) 研究シーズブラッシュアップ連携プログラム

- ・研究技術情報・研究シーズ情報データベースの構築
- ・研究シーズブラッシュアップ勉強会の開催 など



持続的・包摂的な女性研究者支援 ～人間の可能性と多様性の尊重 ダイバーシティ～

ダイバーシティ推進室
Tel: 029-853-8504 Fax: 029-853-8505
E-Mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://www.geo-wlb.tsukuba.ac.jp/

■ 筑波大学

筑波大学は、人文社会科学から理学、工学、情報科学、農学、医学、体育芸術まで、幅広い学問分野をカバーする7学群と2専門学群ならびに3大学院課程から成る総合大学です。男女共同参画社会の実現のために果たしていくべき社会的役割と責任を認識し、第3次「男女共同参画基本計画」や第4次「科学技術基本計画」に基づき、男女共同参画の推進に取り組んでおります。平成19年には「男女共同参画推進委員会設置」、平成20年には「男女共同参画推進室設置」「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念と基本方針」が策定され、平成21年には「持続可能な女性研究者支援、筑波スタイル」が「平成21年度科学技術振興調整費（女性研究者支援モデル育成事業）」として採択され、平成24年3月まで3年間、同事業の支援を受けて環境整備に努めてきました。平成24年4月には、男女共同参画に加え、他国籍や障害をもつ教職員が安心して勤務できる環境作りをめざし、「ダイバーシティ推進室」へ改編し、「ダイバーシティ推進に係る基本理念・基本方針」を定めました。平成25年3月には「筑波大学 ダイバーシティ推進行動計画」の策定、8月には「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の採択を受け、男女共同参画・ダイバーシティ推進の環境拡充に邁進しております。

■ ダイバーシティ推進に係る基本理念・基本方針

【基本理念】

筑波大学は、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず人間の可能性と多様性を尊重し、ダイバーシティ文化の醸成に努めるとともに、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作りあげるため、以下の理念のもとに、男女共同参画社会及びダイバーシティ社会の形成に積極的に寄与する。

【基本方針】

1. 男女共同参画、及びダイバーシティの視点に立った教育・研究・就業の確立
 2. 教育・研究・就業と家庭生活との両立支援
 3. 若手、女性、外国人等^(注)増加のための施策の推進
 4. 若手、女性、外国人等の役職、及び施策決定に関与する委員会への登用の促進
 5. 教職員・学生への啓発活動の推進
 6. 地域社会・国際社会との連携を通じた男女共同参画、及びダイバーシティの推進
- (注)「若手、女性、外国人等」とは、左記に掲げた人々のみならず、性別、年齢、国籍や障がいの有無を超えた多種多様な人々を指す。

■ ダイバーシティ推進行動計画（平成25～30年度）



■ 理系女子を増やすための取り組み

「発見しよう 理系の魅力！ 繋がろう 理系仲間！ In Tsukuba ～ラボ実験宿泊型、リケジョ育成プログラム～」

日時：平成25年8月5日（月）13:00～平成25年8月7日（水）

参加者：女子中高生101名（中学生48名、高校生53名）、保護者23名

内容：
・女性科学者のローモデルと語ろう（ラウンドテーブルカフェ）
・交流会、保護者セミナー「理系女子の将来」
・1日サイエンス実験体験、サイバニクス研究センター見学
・トークショー「リケジョになろう～気象キャスターのお仕事」
・未来の自分は！？（中高生発表）、ワーク（会合による意識の変化）



筑波大学はこれからも
男女共同参画・ダイバー
シティの推進に努めて行
きます。

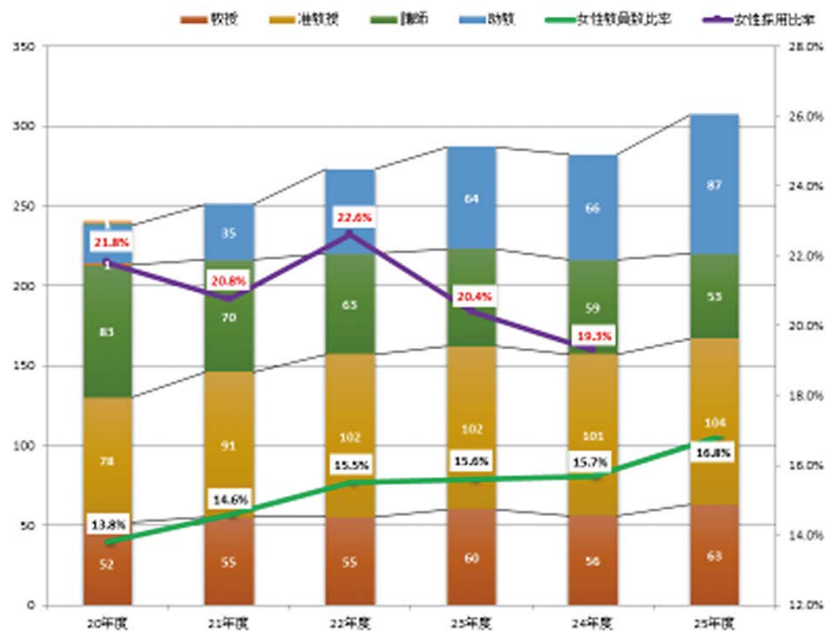


Office of Diversity
University of Tsukuba

参考資料

① 女性研究者数と女性研究者比率の推移

職階級別女性研究者数と女性研究者比率の推移



②平成25年度主な事業一覧

平成25年

4月

19日 平成25年度第1回ダイバーシティ推進室 室員会議

5月

13日 リケジョワーキンググループ 第1回会議

13日 ダイバーシティ推進室HPリニューアル

6月

2日 第11回思春期保健相談士学術研究大会特別講演「子どもの成長支援と『女性が働くこと』」

7月

12日 平成25年度第2回ダイバーシティ推進室 室員会議

31日 茨城県男女共同参画ネットワーク講座「ダイバーシティの推進」

8月

5日～7日 夏休みサイエンス体験合宿

9月

・系長訪問によるダイバーシティ推進ニーズ調査

6日 平成25年度第3回ダイバーシティ推進室 室員会議

26日 NHK水戸 ニュースワイド茨城にて「夏休みサイエンス体験合宿」放送

10月

・女性外国人採用比率調査実施

・業務補助者雇用経費助成制度・学内公募

7日 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム ポスター発表

9日 人間総合研究科第3回FD講演会・ダイバーシティ推進事業紹介

11月

・「育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成制度」公募

6日 生命環境エリア運営会議・ダイバーシティ推進事業紹介

6日 NHK総合「ゆうどきネットワーク」にて「夏休みサイエンス体験合宿」放送

8日 平成25年度第4回ダイバーシティ推進室 室員会議

11日 女性研究者支援事業合同シンポジウム

29日 NHK総合「おはよう日本」にて「ワーク・ライフ学」放送

**12月**

- 4日 筑波技術大学第2回FD研修会「『出産・育児と教育・研究』の支援に向けて」発表
- 7日 つくば市「つくば男・女（みんな）のつどい2013」にてポスター発表
- 8日 公開講座「多様性（ダイバーシティ）とは何か～21世紀流の「インクルーシブ（包摂）社会」を考える～」第1回
- 12日 女性研究者研究活動支援事業・特別ワーキンググループ 第1回会議
- 15日 公開講座「多様性（ダイバーシティ）とは何か～21世紀流の「インクルーシブ（包摂）社会」を考える～」第2回
- 16日 第1回「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」発足準備会

平成26年**1月**

- 8日 平成25年度第5回ダイバーシティ推進室 室員会議
- 27日 第2回「つくば女性研究者研究活動支援連絡協議会（仮称）」発足準備会
- 28日 平成25年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム連絡協議会 事業報告発表
- 31日 ダイバーシティ・セミナー第1回
「未来を切り開くリーダーになるために——女性のためのリーダー研修」

2月

- 19日 「つくば女性研究者支援協議会」キックオフシンポジウム2014
- 24日 ダイバーシティ・セミナー第2回「ワークライフデザインセミナーⅠ 自己実現編」
- 25日 ダイバーシティ・セミナー第3回「ワークライフデザインセミナーⅡ パパ・ママ編」

3月

- 3日 ダイバーシティ・セミナー第4回「外部資金獲得セミナー」
- 8日 平成25年度第6回ダイバーシティ推進室 室員会議
- 15日 リケジョサイエンスカフェ

③裾野拡大事業関連資料

■夏休みサイエンス体験合宿

【2013年8月5日（月）13:00】

「開会式、基調講演、オリエンテーション」

「挨拶」

東 照雄（筑波大学 理事 副学長（総務・人事担当））

「科学を勉強すると何ができる」

Benton Caroline Fern（筑波大学 副学長（国際担当））

（司会進行、オリエンテーション）

庄司一子（筑波大学 人間系 教授 ダイバーシティ推進室室長）

幅崎麻紀子（筑波大学 准教授 ダイバーシティ推進室副室長）

■実施内容等：

ダイバーシティ推進を担当する東照雄副学長の挨拶の後、Benton Caroline Fern副学長より「科学を勉強すると何ができる」と題し、理系女子の将来性およびその魅力について講演を行った。魅力あふれる理系女子の未来を聞いた参加者と活発な質疑応答がなされた。

続いて、本合宿のオリエンテーションが行われ、参加者には今の気持ちおよびこの合宿でのミッションを用紙（リケジョクローバー）に記入してもらった。

【2013年8月5日（月）①ターム：14:30、②ターム16:00】

「女性科学者のロールモデルと語ろう（ラウンドテーブルカフェ）」

「A：理系的センスは幸のエッセンスです」

麻美直美（筑波大学 体育系 准教授）

森田ひろみ（筑波大学 図書館情報メディア系 講師）

「B：語り合おう！理系科学の夢・魅力」

小川園子（筑波大学 人間系 教授）

河手香織（宇宙航空研究開発機構（JAXA））

「C：理系女子の集いを心から楽しもう」

松田ひとみ（筑波大学 医学医療系 教授）

古澤仁美（（独）森林総合研究所 企画部 男女共同参画室 室長）

「D：リケジョの未来を語りましょう」

瀬尾恵美子（筑波大学 医学医療系 講師）

栢沼 愛（筑波大学 システム情報系 助教）

「E：理系キャリアってどんな感じ？」

山科直子（筑波大学 広報部 サイエンスコミュニケーター）

前田祐佳（筑波大学 数理物質系 助教）

「F：社会で輝くリケジョの魅力」

岩浦里愛（（独）農業・食品産業技術総合研究機構）

柳 久子（筑波大学 医学医療系 教授）

■実施内容等：

筑波大学およびつくば市にある様々な研究機関で活躍されている理系女子である方々を招いて、それぞれの体験談や理系女子に対する思い・魅力などを話し、参加者と活発な意見交換が行われた。

参加者は1時間ごとに興味のある2つのグループをまわった。

さまざまな分野で活躍されている研究者がグループごと（全6グループ）に2人ずつ分かれ、参加者が興味ある分野の理系女子と歓談でき、非常に真剣にかつ楽しんで参加してくれた。また、研究者が積極的に参加者と交流したことにより、参加者の満足度も高く、非常に有意義な時間であった。

今回は各グループ、約20名ずつで行ったが、更に満足度を上げるために、今後は少人数でのグループ分けをした方がより深く議論出来るので改善をしていく予定である。



筑波大学
University of Tsukuba

発見しよう 理系の魅力! 繋がりよう 理系仲間! in つくば

女子中高生の皆様、保護者・教員の皆様

2泊3日

夏休みサイエンス体験合宿に参加しませんか!

サイエンス
体験合宿とは...

「サイエンス」環境にたっぷりと浸りながら、2泊3日、筑波大学で、リケジョ仲間やリケジョ先輩たちと、ラウンドテーブルカフェ、実験体験に参加し、あなたの「サイエンス観」を開花するプログラムです!



女子中高生プログラム: ★女性科学者と語ろうラウンドテーブルカフェ
★1日サイエンス実験体験
保護者特別プログラム: セミナー「理系女子の将来」

★トークショー
「リケジョになろう!」
～気象キャスターのお仕事～」

講師 井田寛子氏
[NHKニュースウオッチ9]気象予報士

女性科学者と語ろう ラウンドテーブルカフェ

女性科学者(異なる分野の研究者が二人一組でグループになります)と、研究のおもしろさや理系の魅力、ライフスタイル、将来像等々、自由に話し合うための企画です。この機会に、色々なことを直接聞いてみませんか。

A 理系のセンスは幸のエッセンスです

麻見直美: 食・栄養と運動・スポーツ
森田ひろみ: 認知心理学

B 語り合おう! 理系科学の夢・魅力

小川園子: 絆を育むホルモンの働き
河手香織(宇宙航空研究開発機構(JAXA)): 人工衛星「みちびき」

C 理系女子の集いを心から楽しもう

松田ひとみ: 高齢者、生理学、喜び、ケア
古澤仁美(森林総合研究所): 森、シカ、土、相互作用

D リケジョの未来を語りましょう!

瀬尾恵美子: 肝疾患、遺伝子治療
栢沼愛: 化学、コンピュータシミュレーション

E 理系キャリアってどんな感じ?

山科直子: 科学コミュニケーション
前田祐佳: 光による生体計測

1日サイエンス実験体験

筑波大学の様々な研究室を訪問し、実験室で科学実験に参加して科学の楽しさを身近に感じてもらうための企画です。最先端のサイエンス実験を体験してみませんか。

1 望遠鏡の自作と
天体観望
中井直正

2 不思議な
生物現象の化学
北 将樹

3 生物の多様性から
読み解く歴史
八畑謙介

4 導電性高分子の
原理と応用
後藤博正

5 無機系エネルギー・
環境材料研究室
鈴木義和

6 面白不思議
科学実験・工作
小林正美

7 脳コミュニ
ケーション
川崎真弘

8 音響システム
若槻尚斗・水谷孝一

9 通信システム
海老原格・水谷孝一

10 生体計測
システム
前田祐佳・水谷孝一

11 プログラミングと
電子機器
栢沼 愛

12 知覚・認知
心理学研究室
森田ひろみ

13 ウイルスの
分子生物学
齋藤祥子・川口敦史

14 脳とホルモンの
行動科学ラボラトリー
小川園子

開催
日時

2013年

8月5日(月) 13時～8月7日(水) 12時

会場

筑波大学 筑波キャンパス 総合研究棟A棟
(宿泊:筑波山ホテル青木屋)

募集人数

女子中高生
100名

同伴者
30名

参加費

女子中高生・同伴者 各15,000円
宿泊費2泊分(朝夕食・2日目の昼食)込

※筑波大学までの交通費は自己負担

申込締め切り: 平成25年6月30日(日)

主催: 筑波大学 後援: 茨城県教育委員会、つくば市教育委員会

※「発見しよう 理系の魅力! 繋がりよう 理系仲間! in つくば」は、独立行政法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援事業」の受託事業です。

III

ダイバーシティ推進事業

【2013年8月5日（月）21:00】

「交流会（1日目）」

「科学は好奇心からはじまる！見てみよう、聞いてみよう、サイエンスミュージアムの世界」

水嶋英治（筑波大学 図書館情報メディア系 教授）

「交流プログラム」

庄司一子（筑波大学 人間系 教授 ダイバーシティ推進室室長）

幅崎麻紀子（筑波大学 准教授 ダイバーシティ推進室副室長）

■実施内容等：

水嶋教授の講義では自身のフィールドである博物館や世界遺産学の観点から理系の魅力について話し、リラックスした雰囲気の中で、活発に質疑応答が行われた。

その後、庄司教授、幅崎准教授らにより、参加者が交流を深めるためのプログラムが行われた。その内容は非常に画期的で、既に友人になっている参加者同士だけではなく、まだ話したこともない友人と一緒にワークすることで、理系女子の友人の輪の形成を促進した。

【2013年8月6日（火）午前の部：9:15、午後の部：13:30】

「1日サイエンス実験体験」

「①望遠鏡の自作と天体観望」

中井直正（筑波大学 数理物質系 教授）

「②不思議な生物現象の化学」

北 将樹（筑波大学 数理物質系 准教授）

「③生物の多様性から読み解く歴史」

八畑謙介（筑波大学 生命環境系 講師）

「④導電性高分子の原理と応用」

後藤博正（筑波大学 数理物質系 准教授）

「⑤環境浄化に向けた新しい無機材料」

鈴木義和（筑波大学 数理物質系 准教授）

「⑥筑波大学発 面白不思議科学実験工作隊」

小林正美（筑波大学 数理物質系 准教授）

「⑦脳科学から見るコミュニケーションのリズム」

川崎真弘（筑波大学 システム情報系 助教）

「⑧楽器のしくみを解き明かそう！」

若槻尚斗（筑波大学 システム情報系 准教授）

「⑨光通信システムを作ってみよう！」

海老原格（筑波大学 システム情報系 助教）

「⑩簡単な装置で脈波を測定してみよう！」

前田祐佳（筑波大学 システム情報系 助教）

「⑪プログラムを書いて電子機器を操作しよう」

栢沼 愛（筑波大学 システム情報系 助教）

「⑫認知心理実験を体験してみよう」

森田ひろみ（筑波大学 図書館情報メディア系 講師）

「⑬ウイルスの分子生物学」

齋藤祥子（筑波大学 医学医療系 助教）

川口敦史（筑波大学 医学医療系 助教）

「⑭脳とホルモンの行動科学ラボラトリー」

小川園子（筑波大学 人間系 教授）

「⑮タンパク濃度を測ってみよう！～タンパク濃度ってなんだろう？～」

河野 了（筑波大学 医学医療系 講師）

「⑯環境測定から考える微気候デザイン」

橋本 剛（筑波大学 芸術系 准教授）

■実施内容等：

参加者の希望に応じて、16のグループに分かれ、最新の研究を体験し、実際に大学で活躍している研究者と交流した。参加者は午前、午後で興味のあるグループ（合計2つの研究室）をまわった。

中学校、高校では体験できない最先端の研究を学び、体験し、それぞれの研究室で活躍している女性研究者と交流した参加者は、参加前後で理系に対する考え方が大きく変わり、研究や理系そのものに興味を持ってくれた参加者が多数見受けられた。また、各研究室で今回の1日サイエンス実験体験を真摯に協力してくれたことにより、筑波大学に興味を持ってくれた参加者もいた。今回のを通して、参加者の満足度が高かったことから、今後更に多くのフィールドの方々に協力を要請することにより、より多くの理系フィールドを知ってもらい、理系の活性化につながる事が期待できる。

【2013年8月6日（火）9:30】

「保護者セミナー」

齋藤一弥（筑波大学 数理物質系 教授）
 吉瀬章子（筑波大学 システム情報系 教授）
 菅谷純子（筑波大学 生命環境系 教授）
 庄司一子（筑波大学 人間系 教授）
 渡辺正隆（筑波大学 広報室 教授）
 （司会）大野忠士（筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授）

■実施内容等：

大野教授が司会をし、参加した先生方から、保護者の方々に理系女子の魅力等を伝え、理系女子の大学生活や進路・就職などについても説明した。先生方の説明は非常に興味深く、保護者の方々は時間終了後も質疑応答など活発な意見交換が行われた。

【2013年8月6日（火）17:00】

「サイバニクス研究センター見学」

山海嘉之（筑波大学 システム情報系 教授）

■実施内容等：

参加者がサイバニクス研究センターを見学し、ホールで山海教授から直接、最新技術、研究の説明を受けた。その研究成果の一つであるロボットスーツの映像などに強く興味をもっていた。その後、積極的に質疑応答が行われた。

【2013年8月6日（火）21:00】

「交流会（2日目）」

「ワーク～もっと²「理系」が楽しくなる魅力アップ大作戦～」

庄司一子（筑波大学 人間系 教授 ダイバーシティ推進室室長）

幅崎麻紀子（筑波大学 准教授 ダイバーシティ推進室副室長）

■実施内容等：

交流会2日目は、リケジョ仲間とともに、宿泊した2部屋ごとに1つのグループとなり、全11グループで、もっと²「理系」が楽しくなる魅力アップ大作戦を行った。本プログラムで、理系に対する考え方や理系女子のイメージがどのように変わったのか、それぞれのグループが最終日に発表できるように、模造紙に記入してもらった。この2日間で、さまざまな経験を経て、理系の仲間を作ることができるよう積極的に活動し、かつ考え方や積極性が増している様子が見られた。

【2013年8月7日（水）9:00】

「未来の自分は！？（中高生発表）」、「ワーク」

（司会）庄司一子（筑波大学 人間系 教授 ダイバーシティ推進室室長）

幅崎麻紀子（筑波大学 准教授 ダイバーシティ推進室副室長）

■実施内容等：

中高生発表では、前日行ったワーク「～もっと²「理系」が楽しくなる魅力アップ大作戦～」で作成した発表資料を用い、グループごとに発表を行った。発表の際にはグループ全員が登壇して発表した。発表自体は4分という短い時間であったが、きれいにまとまっており、スムーズに進行が行われた。

実際の発表では、理系のイメージを発表してもらい、その後、もっと理系を魅力的にするには、という題で発表してもらった。全てのグループで発表内容が決まっており、さまざまな観点から、理系を分析しその魅力を発表した。発表していた参加者の目は輝いており、本合宿でさまざまなことを経験し、満足度が高い合宿になっていたことが窺えた。

また、初日に記入してもらったリケジョクローバーに、当初設定したミッションが達成できたか否か記入してもらい、この合宿を通してどのように理系に対するイメージが変化したか記入してもらった。多くの参加者が合宿を通して、それぞれのミッションをクリアしていた。更に、参加者は理系をより魅力的に感じ、本合宿に積極的に参加し、多くのことを学んでいった。その結果として、参加者から高評価を得ている。



III

【2013年8月7日（水）10:30】

「トークショー」

「リケジョになろう！～気象キャスターのお仕事～」

井田寛子（NHKニュースウォッチ9 気象予報士）

■実施内容等：

NHK ニュースウォッチ9 気象予報士である井田寛子氏の講演が行われた。井田氏の講演では、自身の体験談を話していただき、参加者が興味を持ちやすい内容になっていた。更に、実際に活躍している理系女子として、理系の魅力なども話していただいた。実体験などを交えた講演に、参加者も興味を持ち、質疑応答でも活発に質問が出された。

【2013年8月7日（水）11:30】

「閉会式」

「挨拶」 東 照雄（筑波大学 理事 副学長（総務・人事担当））

「修了証授与」 庄司一子（筑波大学 人間系 教授 ダイバーシティ推進室室長）

■実施内容等：

閉会式では東副学長より挨拶を行い、その後、庄司教授より参加者一人一人に修了証が手渡された。その際、参加者より、「また参加したい」という感想が多数あった。

リケジョサイエンスカフェ

【2014年3月15日（土）12:30】

「開講式」

東 照雄（筑波大学 理事 副学長（総務・人事担当））

■実施内容等：

ダイバーシティ推進を担当する東照雄副学長より、今回のリケジョサイエンスカフェを開催する意義などについて挨拶があった。

【2014年3月15日（土）12:45】

「陽子線医学利用研究センター見学」

榮 武二（筑波大学 医学医療系 教授）

■実施内容等：

参加者は2つのグループに分かれて陽子線医学利用研究センターを見学した。陽子線医学利用研究センターを紹介したビデオを視聴後、榮教授の説明を受けながら、主要施設の見学を行った。参加者は、シンクロトロン、加速器室などに強く興味をもっていた。その後、積極的に質疑応答が行われた。

【2014年3月15日（土）14:30】

「パネルディスカッション」

●女子中高生：茨城県立竹園高等学校

茨城県立土浦第二高等学校

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校

牛久市立牛久第三中学校

つくば市立春日中学校

つくばみらい市立小絹中学校

土浦市立土浦第四中学校

●大学・研究所・企業：

山岸裕美（アサヒビール株式会社 酒類技術研究所 微生物技術部 部長）

村田 弓（（独）産業技術総合研究所）

木村有貴（株式会社日立ソリューションズ）

植田暁子（筑波大学 数理物質系 助教）

神山純子（筑波大学 人間総合科学研究科フロンティア医科学）

（司会）

幅崎麻紀子（筑波大学 准教授 ダイバーシティ推進室副室長）

■実施内容等：

まずは5人の研究者より、それぞれの体験談や理系女子としての楽しさ、難しさ、理系女子についての思い・魅力などを話していただき、その後、女子中高生より、科学や理系女子について、研究者へ質疑応答が行われた。最後に、保護者や教員との質疑応答を行った。



筑波大学
University of Tsukuba

発見しよう 理系の魅力! 繋がろう 理系仲間! in つくば

女子中高生の皆様、
保護者・教員の皆様

リケジョサイエンスカフェへ 参加しませんか?

大学、研究所、企業等で活躍する
女性研究者との交流会です!

最新医療技術が導入された陽子線医学利用研究センターも見学。
「リケジョサイエンスカフェ」は、リケジョ仲間や先輩たちとパネルディスカッションを行いながら、理系の魅力を発見し、理系仲間との絆を深めるプログラムです。



パネル
ディスカッション

女子中高生 & 大学・研究所・企業

茨城県立
竹園高等学校
茨城県立
土浦第二高等学校
茨城県立
電ヶ崎第一高等学校
牛久市立
牛久第三中学校
つくば市立
春日中学校
つくばみらい市立
小絹中学校
土浦市立
土浦第四中学校
その他...

&

アサヒビール
株式会社
(独) 産業技術
総合研究所
株式会社日立
ソリューションズ
筑波大学

アサヒビール株式会社

ものづくりは楽しいで
す。リケジョとして社
会に貢献しましょう。

やまざし ひろみ
山岸裕美先生
酒類技術研究所 微生物技術部 部長

(独) 産業技術総合研究所

自分の好奇心を
大切にしましょう。

むらた ひろみ
村田 弓先生
ヒューマンライフテクノロジー研究部門
システム脳科学研究グループ

株式会社日立ソリューションズ

希望通りにいかないことが
あっても、それぞれの
場所でもやりがいや楽しい
ことが見つかるはずです。

きむら ゆうき
木村有貴先生
社会システム事業部

筑波大学

大学での研究活動
の様子についてお伝
えしたいと思います。

うえだ あきこ
植田暁子先生
数理物質科学研究科
電子・物理工学専攻助教

筑波大学

みなさんと色んな話を
して、少しでもお役に
立てたら嬉しいです!

かみやま しほり
神山純子先生
人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻
救急・集中治療医学

開催日時

2014年

3月15日(土) 12:30~17:15

会場

筑波大学 つくばキャンパス
医学エリア共同利用棟B, 202室

募集
人数

女子中高生
100名

保護者
・教員

参加費
無料

申込締め切り: 2014年3月7日(金)

陽子線医学利用
研究センター見学

国内外で最も歴史のある医学利用
研究センターの見学です。ぜひご参
加ください。



リケジョ
カフェ

「理系」をキーワードに、リケジョ
同士の交流、先輩との交流、
親子の交流、親相互の交流
を深めていく会です。お茶を飲
みながら、リラックスした雰囲気
で、なんでも相談できる良い
チャンスです。お楽しみに...

主催: 筑波大学

後援: 茨城県教育委員会、つくば市教育委員会

※「発見しよう 理系の魅力! 繋がろう 理系仲間! in つくば」は、
独立行政法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援事業」の受託事業です。

III

ダイバーシティ推進事業

【2014年3月15日（土）16:00】

「リケジョカフェ」 大学・研究所・企業の研究者、女子中高生、保護者・教員

■実施内容等：

さまざまな分野で活躍されている研究者が5テーブルに1人ずつに分かれ、最初の30分は、指定されたテーブルを担当している研究者と歓談した。

その後、参加者が興味ある分野で活躍されている研究者と歓談した。

研究者が積極的に参加者と交流したことにより、参加者が非常に興味を持って歓談することができた。飲み物やお菓子をつまみながらのリラックスした雰囲気の中で、参加者と研究者、参加者同士で交流を深めることができた。

【2014年3月15日（土）17:00】

「閉講式」 「挨拶」

■実施内容等：

庄司教授より今回の活動の持つ意義、女子中高生への期待などについて閉会の挨拶があった。閉会后、参加者より、「楽しかった」、「また参加したい」との感想が多数あった。

夏休みサイエンス体験合宿ニュースレター

筑波大学ダイバーシティ推進室 独立行政法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援事業」受託事業

発見しよう 理系の魅力！繋がりよう 理系仲間！ in Tsukuba

NEWS LETTER 創刊号 2013.10

「夏休みサイエンス体験合宿」 8.5～8.7

2013年8月5日（月）～7日（水）、筑波キャンパスにおいて、「サイエンス」環境にたっぴいと浸りながら、女子中高生に科学の楽しさを身近に感じてもらうため、理系の仲間を作ってもらうため、「夏休みサイエンス体験合宿」を行いました。女子中高生101名（中学生48名、高校生53名）、保護者23名が参加した今回の活動は、女子中高生および保護者から大好評を頂きました。



↑ 開講式



↑ 理科、楽しいね！実験、楽しいね



↑ ラウンドテーブルカフェ



↑ 保護者も興味深々



↑ サイエンス実験、楽しい



↑ 気象キャスター井田寛子さんと一緒に実験しました



↑ 山海嘉之先生のサイバニクス研究



↑ 井田寛子さんみたいにいたいね



こんなに
なかよく
なりました

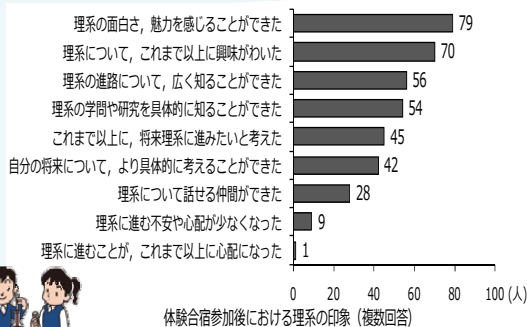


未来の
自分は
？！

アンケートからこんなことがわかりました



ほとんどの参加者が、「理系の魅力を感じた」、「これまで以上に興味がわいた」と答えました。また、「これまで以上に、将来理系に進みたいと考えた」と答えている参加者が半分近くいました。「実験をもっとやりたかった」、「もっと時間を増やしてほしい」、「帰りたいくない」という声も寄せられ、参加した女子中高生のサイエンスへの関心の高さが伝わってきます。皆さんからの意見を参考に、今後の活動をより充実させたいと考えていきます。



「夏休みサイエンス体験合宿」NHK、茨城新聞で報道！

茨城新聞平成25年8月13日（火）の朝刊で、「理系女子目指せ一中高生筑波大で体験合宿」というタイトルで「夏休みサイエンス体験合宿」が掲載され、9月26日（木）、NHK水戸放送局の「ニュースワイド茨城」で、「夏休みサイエンス体験合宿」の様子が紹介されました。第1線の研究者と直接交流しながら科学を楽しむ女子中高生の姿を通して、放送の中で、今回のプログラムが「少女たちの背中を押す一助になった」と評価するコメントが述べられていました。



「リケジョカフェ」2月に開催予定

理系を選択するか、文系を選択するかは、多くの女子生徒の悩みであり、親の悩みでもあります。2月には、「リケジョ仲間カフェ」を開催し、「理系」をキーワードに女子中高生の交流、親子の交流、親相互の交流を深める会を開く予定です。皆さんの参加はもちろん、周りのお友達にもお声かけくださいね。詳しい内容については、後日またお知らせします。

2月、また会いましょうね！



筑波大学の学園祭、来てね！

11月2日（土）～4日（月、祝）、筑波大学学園祭「雙峰祭」が開催されます。雙峰祭は関東有数の学園祭で、約500の様々な企画や模擬店を予定しています。学術研究が盛んな筑波大学ならではの「学研企画」や、最高峰の実力を誇る体育系サークルや部活の公開練習、芸術系の展示も必見です。

読書コーナー



読書百遍、義自ら見る

どくしょ ひやっぺん ぎおのずか あらわ
意味：たとえわからないところがある本でも、何度も読めば意味は自然とわかるようになるということ。

この本、おすすめだよ



『生物と無生物のあいだ』（2007年）

著者：福岡 伸一 発行所：講談社

内容紹介：生命とは何か？生命科学最大の謎に迫る！生物も無生物も、原子から成り立っている。しかし我々は瞬時にその違いを見抜く。いったい何が両者を分かつか？ミステリー仕立てで読ませる分子生物学入門！

編集後記

筑波大学ダイバーシティ推進室では、女子中高生の理系進学を全力支援しています。これからも様々な活動を行う予定です。今後ともこのニュースレターをおたのしみに...

編集・発行 筑波大学ダイバーシティ推進室

〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
TEL: 029-853-8504 FAX: 029-853-8505
E-mail: rikejo@un.tsukuba.ac.jp



Office of Diversity
University of Tsukuba

■夏休みサイエンス体験合宿

アンケート調査結果

参加者について

参加者の学年構成は表1の通りである。平均年齢は14.6歳（12歳～18歳）であった。

高校1年生は29名で最も多く、次いで中学1年と高校2年が20名ずつ、中学3年生19名であった。

表1 学年ごとの参加人数

中学 (N=47)			高校 (N=53)			全体
1年	2年	3年	1年	2年	3年	
20	8	19	29	20	4	100

Q1. この合宿に参加した主な理由を1つ選んで○をつけてください。

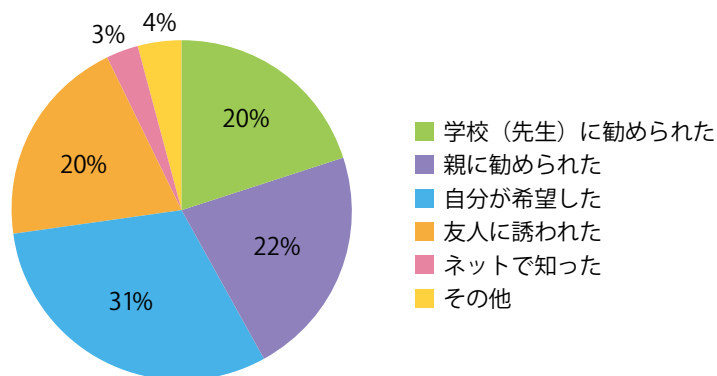


図1 参加した主な理由

Q2. あなたは進路選択について、今回の夏休み体験合宿に参加する前はどのように考えていましたか？
1つ選んで○をつけてください。

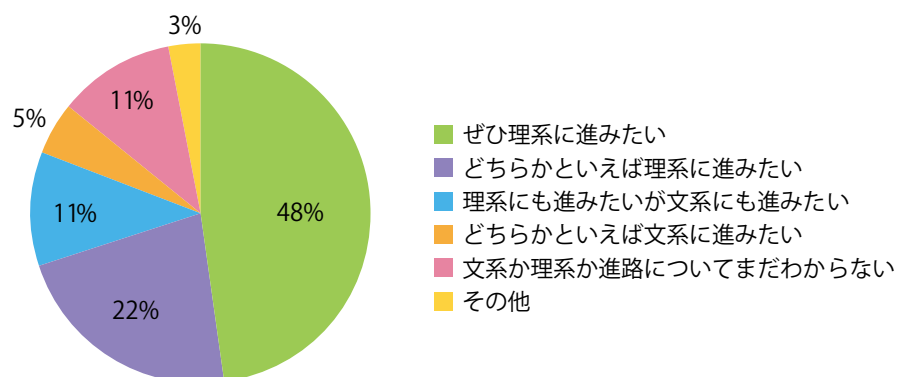


図2 体験合宿に参加する前の進路選択

Q3. 理系の科目は得意（好き）ですか？

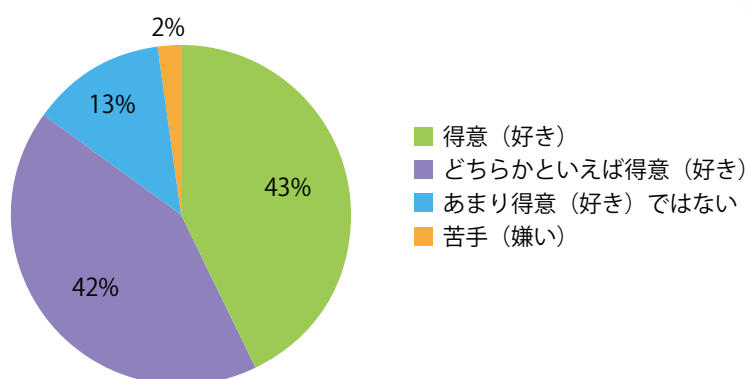


図3 理系の科目は得意（好き）かどうか

Q4. 今回参加したラウンドテーブルカフェ（8月5日午後）**2つに○をつけてください。**

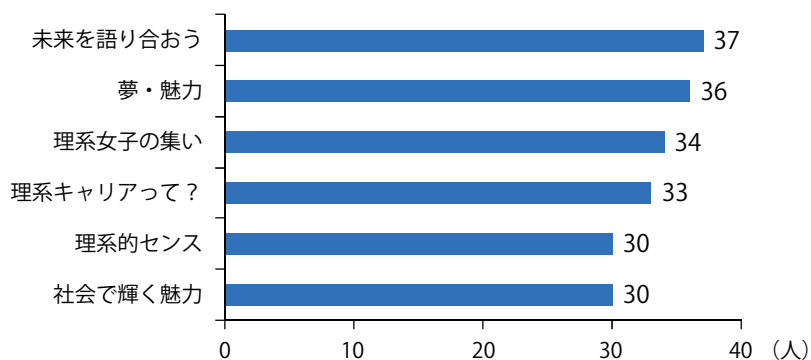


図4 ラウンドテーブル別の参加人数

Q5. 参加したサイエンス実験（8月6日）**2つに○をつけてください。**

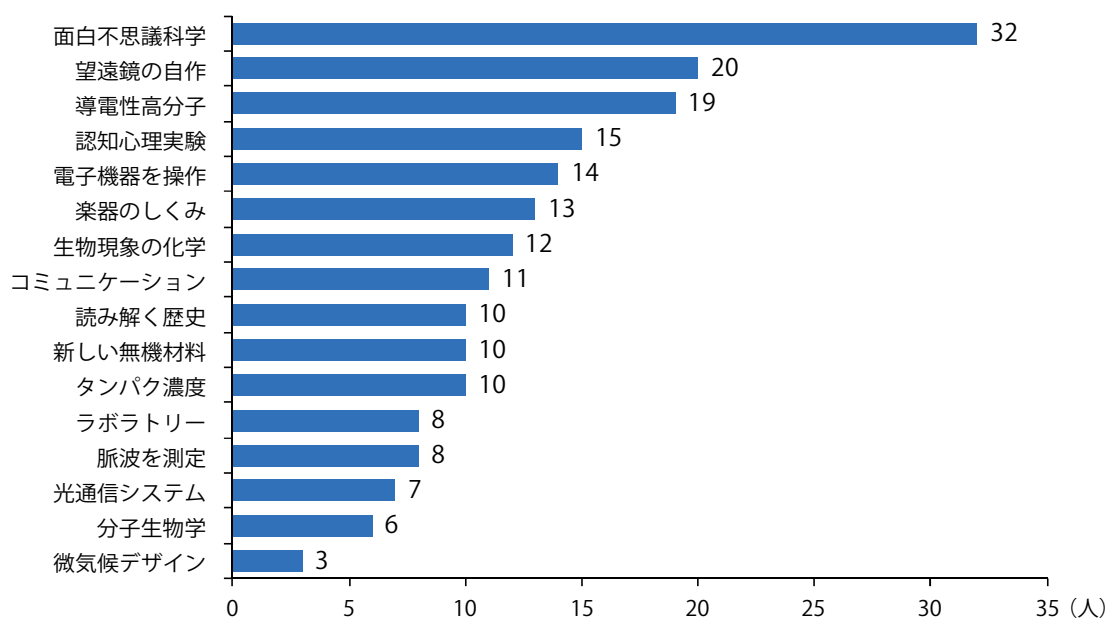


図5 サイエンス実験別の参加人数

Q6. 次の中で、よかったと思うものを選んで数字に○をつけて下さい（いくつでも）。

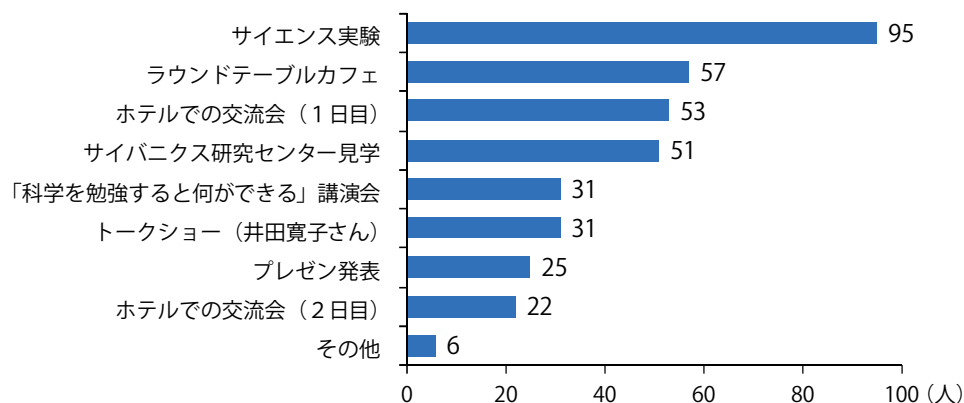


図6 よかったと思うもの（複数回答）
（調査は井田さんの講演前に実施）

Q7. 次の点のうちよかったと思うことがらをを選んで数字に○をつけて下さい（いくつでも）。

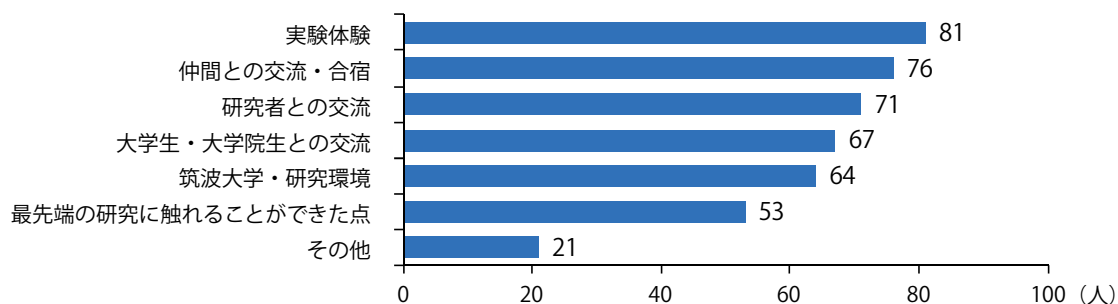


図7 よかったと思うことがら（複数回答）

Q8. サイエンス体験合宿に参加して、理系について感じたことを教えてください。
次の中からあてはまるものを選んで、数字に○をつけてください（いくつでも）。

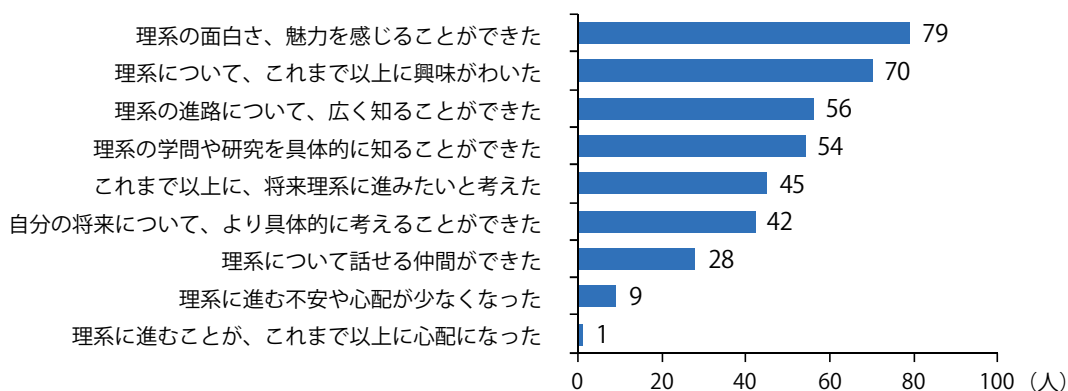


図8 体験合宿参加後における理系の印象（複数回答）

Q9. 進路選択について、今回の夏休み体験合宿に参加した後（現在）はどのように考えていますか？

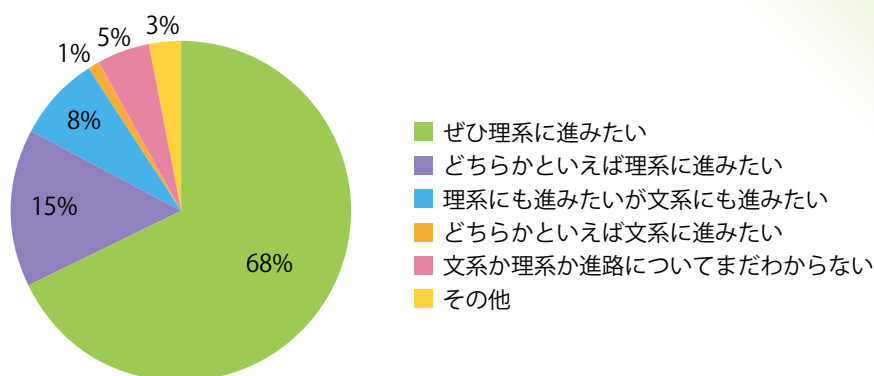


図9 体験合宿参加後の進路選択

Q10. 「サイエンス体験合宿「発見しよう 理系の魅力！^{つな}繋がろう 理系仲間！ in Tsukuba」の感想はどうですか？ 次の1～5の中からあてはまるものを1つ選んで○をつけて下さい。

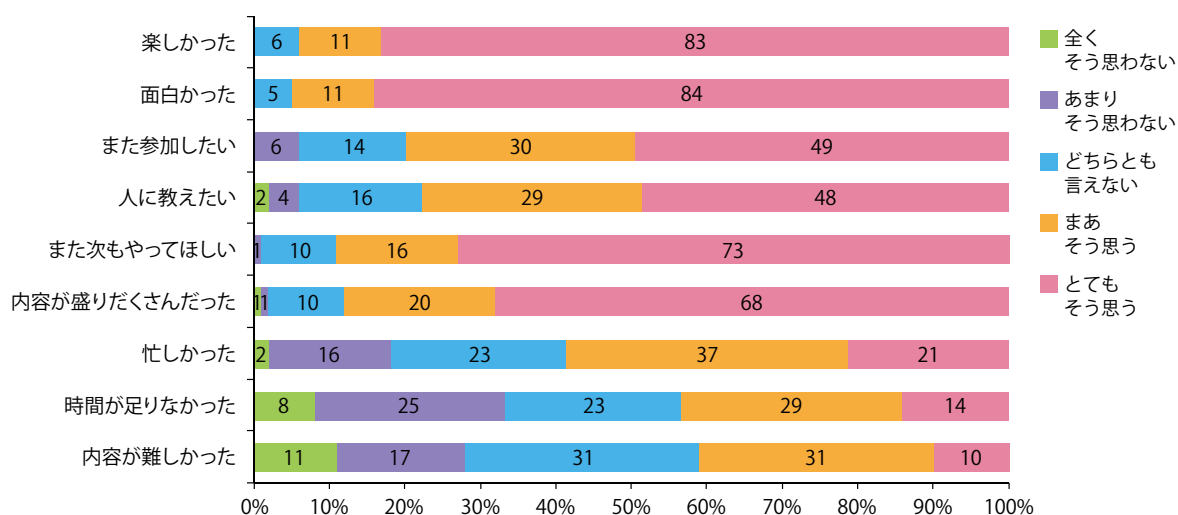


図10 感想における各得点別の回答者の割合

Q11. 今後とりあげてほしいテーマがあれば、自由に書いてください。

- ・医学（iPS細胞のような再生医療）や薬学系（12件）
- ・生物学（動植物、遺伝子など）について、生物学の実験（8件）
- ・宇宙に関すること（宇宙工学、宇宙生物学、天体）（5件）
- ・学生・院生の話（5件）
- ・職業について（研究者、医師・看護師、薬剤師など）（4件）
- ・情報科学（IT、ICT）（3件）
- ・人工知能、ヒューマノイドロボット等ロボット系（2件）
- ・理系進学のコストや就職など現実的なこと（2件）
- ・応用理工学 ・建築 ・応用理工学、情報化学 ・宇宙工学系
- ・生物（植物）系の実験



III

Q12. その他、どんなことでも意見・感想を自由に書いてください。

- ・他県の友達と仲良くなれたし、とても楽しかった。
- ・就寝時間をもっと早くしてほしかった。 ・実験をもっとやりたかった。
- ・ラウンドテーブルや実験を選択するときにもっとくわしく内容が知りたかった。
- ・進路選択についてじっくり考える機会を持つことができたし学習意欲も上がった。
- ・学生さんと交流する時間や自由時間がもっと欲しかった。
- ・一緒に参加した友達と同じ部屋にしてほしかった。
- ・仲が良い友達同士が同じ部屋にならなかったからいろんな子と仲良くなれてよかった。
- ・大学生がいる部屋といない部屋があったので、どちらかに統一したほうがいいと思う。
(大学生がいないと情報がこなかったりいろいろあった)
- ・交流会はいらないと思う。
- ・1週間でもいいからもっと時間を増やしてほしい。
- ・内容が難しかったから、中1でもわかる内容にしてほしい。

■保護者セミナーアンケート

参加者について

- ・参加者は22名（男性1名、女性21名）、平均年齢は45.81歳（41歳～51歳）であった。
- ・参加者のお子さんの学年構成は表1の通りである。

表1 お子さんの学年ごとの参加人数

中学			高校		
1年	2年	3年	1年	2年	3年
6	1	4	4	6	0

Q1. このセミナーに参加した主な理由を選んで○をつけてください（複数選択可）。

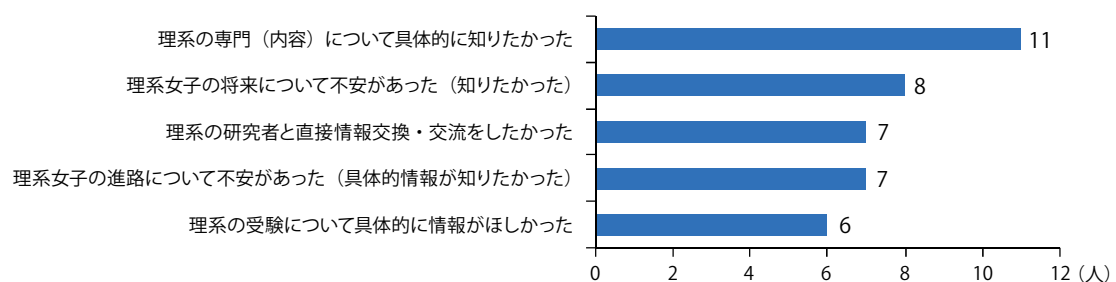


図1 セミナーの参加理由

Q2. お子さんの進路選択に対して、このセミナーの参加前はどのように考えておられましたか？

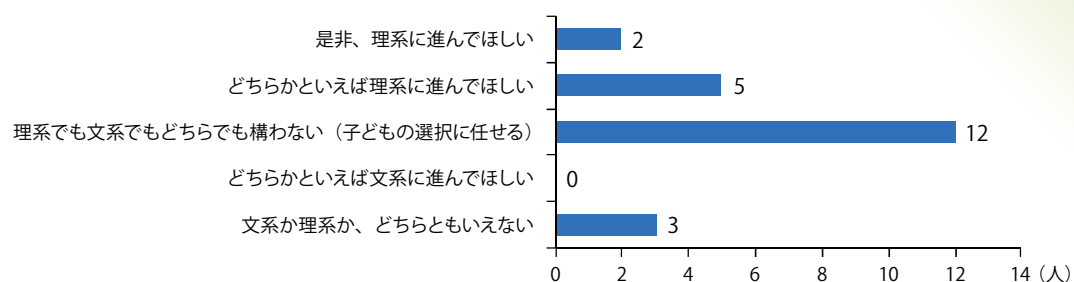


図2 お子さんの進路選択に対する意識 (参加前)

Q3. 次の項目の中から、保護者セミナーに参加していただいた感想・意見としてあてはまるものを選んで、数字に○をつけてください (複数選択可)。

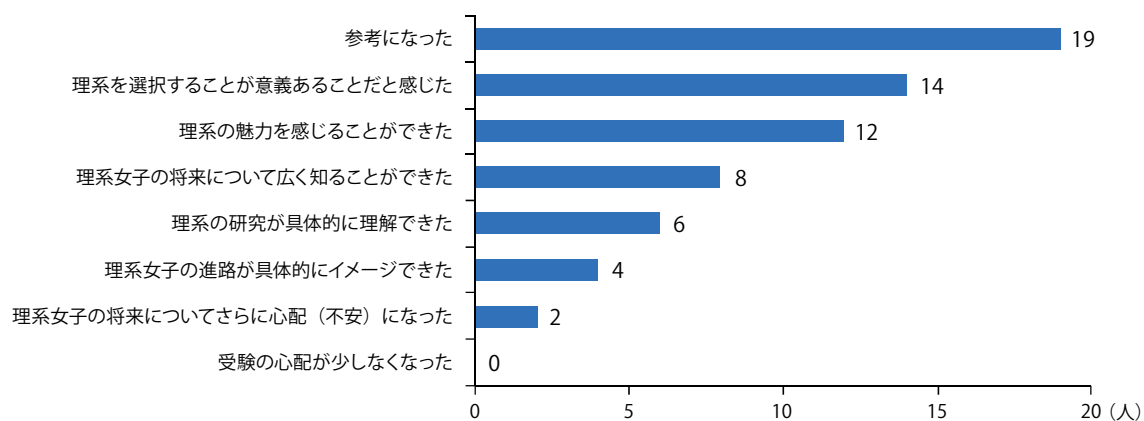


図3 セミナーの感想・意見 (複数回答)

Q4. 今回の企画について、次の中から、お子さんにとってよいと思うことがらを選んで数字に○をつけて下さい (複数選択可)。

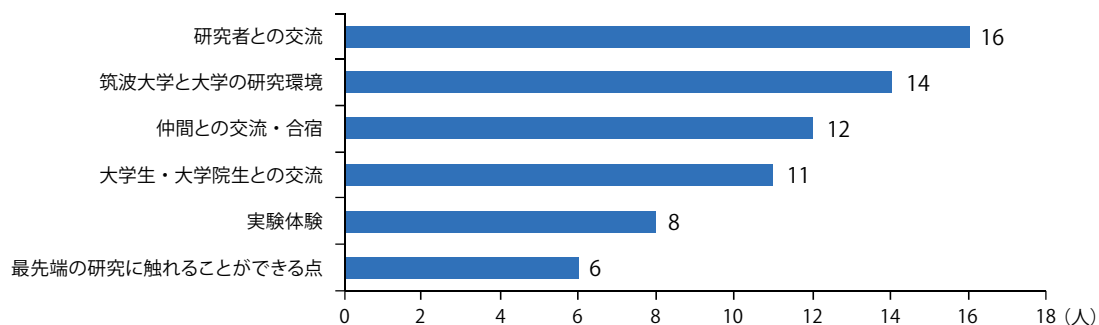


図4 お子さんにとってよいと思う企画 (複数回答)

Q5. お子さんの進路選択に対して、このセミナーの参加後はどのように考えておられますか？

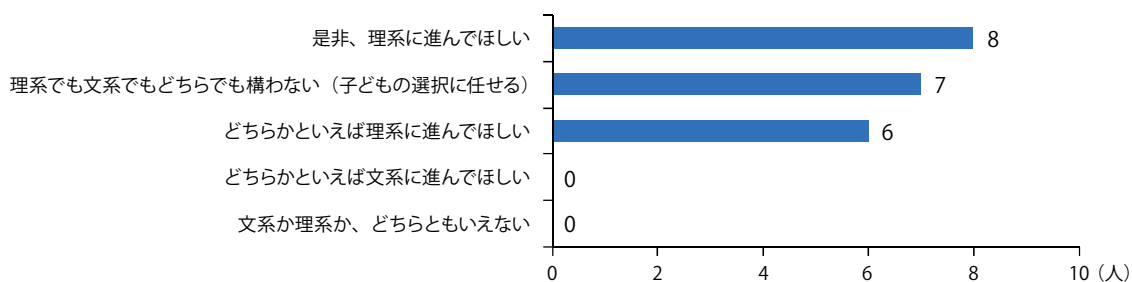


図5 お子さんの進路選択に関する意識（参加後）

Q6. 今回の「保護者セミナー」の感想はどうですか？ 次のそれぞれの質問について「全くあてはまらない (1)」～「かなりあてはまる (5)」の中から1つ選んで数字に○をつけてください。

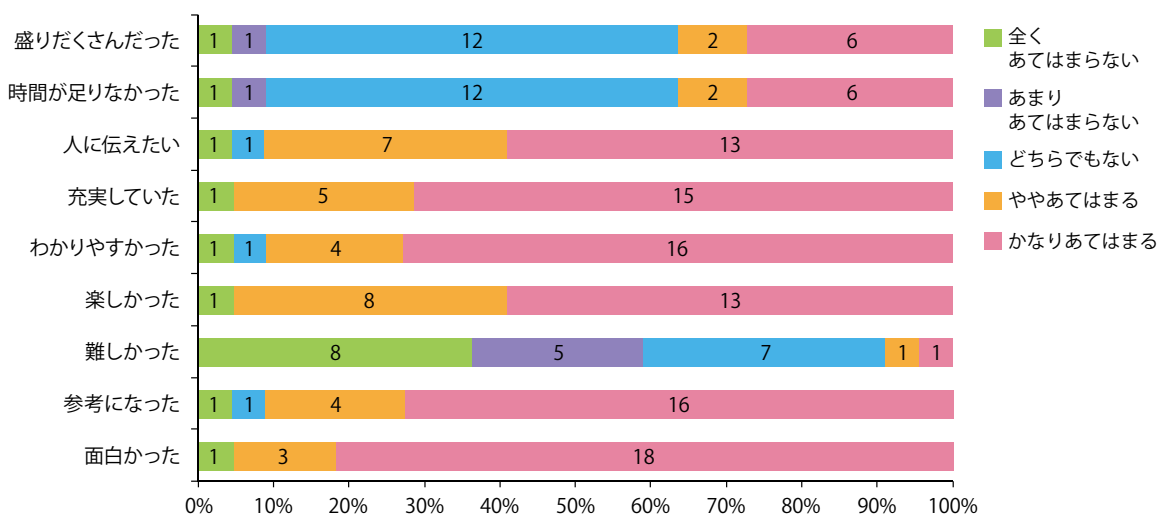


図6 セミナーの感想（図中の数字は回答件数）

Q7. お子さんの進路選択に対して、このセミナーの参加後はどのように考えておられますか？

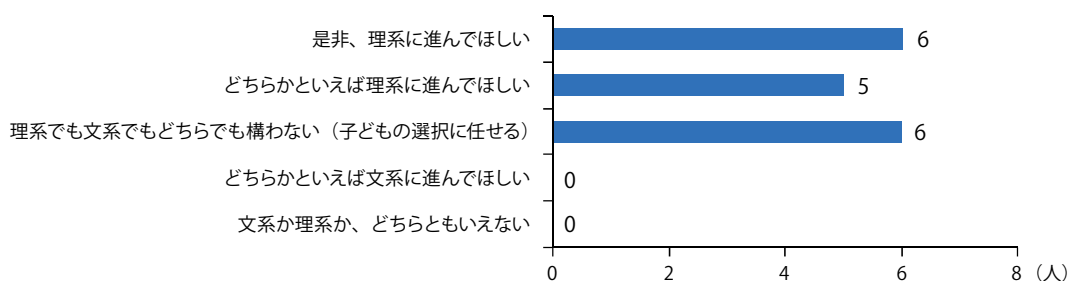


図7 お子さんの進路に対する意識（参加後）



Q8. 今後とりあげてほしいテーマがあれば、自由に書いてください。

- ・今回のような内容で満足（2件）
- ・それぞれの学群、学類についての説明（1件）

Q9. その他、どんなことでも意見・感想を自由に書いてください。

- ・理系文系に関わらず幅広い分野を今は学ぶことが大切と感じました。
- ・文理選択で悩んでおりましたが、理系でも女性が活躍できる分野があると分かり、安心しました。
- ・娘を理系に進ませることについて私自身がほとんど知識がなかったので、とてもよい経験になりました。漠然と不安に思っていたことも質疑応答の中ではっきりと見えてきました。
- ・質疑応答が特に参考になりました。もしこのような機会があれば保護者からの視点のパネラーからのお話をもっととりまぜていただければと思っています。
- ・先生のお話で、先生のご専門の学問に興味がわきました。娘も興味を持てそうだなと。
- ・筑波大学の魅力が理解できました。豊富な学部があるということは視野が広がるという事なので、本日お聞きしたことを娘にぜひ伝えたいと思いました。
- ・筑波大学がとても身近になりました。
- ・こういった企画はこれからも続けて欲しいと思った。



あとかき

筑波大学では、「国立大学法人筑波大学中期目標・中期計画」の「基本的な目標（前文）」に「教員と職員のそれぞれが個性と多様な能力を発揮しつつ協働することにより、次代における大学のあり方を追求し、新しい仕組みを実現するための大学改革を先導する」と掲げ、全学を挙げてダイバーシティの推進に取り組んでいます。

平成25年度は、ダイバーシティ推進事業の一環として、科学技術振興機構（JST）の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」を進めるとともに、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の採択を受け、女性研究者支援事業を進めてまいりました。そして、つくばにゆかりのある大学や企業、研究所の皆様と共に、新たに「つくば女性研究者支援協議会」をスタートしました。複数のプログラムの補助をいただき、女性研究者への支援、そして裾野拡大事業に取り組むことができ、忙しい中にも手応えのある年度となりました。ご協力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

今後も引き続き、男女共同参画に加え、国籍の異なる人々や障がいを持つ等の多様な背景を持つ人々が、共に快適かつ喜びに満ち溢れた環境の中で学び・働くことができるよう、より一層ダイバーシティ推進のための事業に取り組んで参りたいと存じます。筑波大学のダイバーシティ推進活動には、教職員や学生の皆様、そして地域社会の皆様のご協力が不可欠です。ご支援ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ダイバーシティ推進室副室長

幅崎 麻紀子



国立大学法人 筑波大学 ダイバーシティ推進室

〒305-8577 つくば市天王台1-1-1

Tel/Fax 029-853-8504/8505

e-mail : diversity@un.tsukuba.ac.jp

<http://diversity.tsukuba.ac.jp>



Office of Diversity
University of Tsukuba